

社会・環境への責任 2010

社会・環境への責任2010 目次

このPDFの内容は、弊社ウェブサイト「社会・環境への責任」の2010年度版をまとめたものです。

目次	ページ
● 社会・環境への責任 2010 目次	1
● トップメッセージ	2
● コーポレート・ガバナンス	4
● コンプライアンス	6
● ステークホルダー	7
特集 人にやさしい医療へ	
● 負担の少ない治療法を世界中に広めるために	8
● 医療の未来を支えるテルモメディカルプラネックス	10
社会との関わり	
● お客様とともに	12
● 株主・投資家とともに	15
● お取引先とともに	16
● 社員とともに	17
● 社会貢献活動	20
環境との関わり	
● 環境にやさしい企業をめざして	27
● 環境に配慮した商品	30
● 地球温暖化防止	34
● 資源の有効活用	39
● 化学物質管理	43
● グリーン購入の推進	47
● 環境監査の実施	49
● 事業活動・物質フロー	50
● サイトデータ	51
● 取り組みの歴史	53
● 活動の目標と実績	55
● 報告方針	58

人にやさしい医療の実現をめざして

医療への思いが込められた企業理念

1921年、北里柴三郎博士をはじめとした医学者たちの手によって、優秀な体温計の国産化をめざしてテルモは創立されました。そこには、医療の発展を支え、一人ひとりの健康に貢献していきたいという、医療に携わる人たちの熱い思いがありました。「医療を通じて社会に貢献する」。創立以来、テルモが変わらず最も大切にしている企業理念です。



代表取締役 会長

加地 孝

人にやさしい医療の実現をめざして

私たちは「テルモはユニークな輝く技術で、人にやさしい医療を実現します」という企業ビジョンを掲げています。

現在、医療や健康に関する社会の関心はますます高くなっています。医療の高度化が進む一方で、高齢化、経済不況といった社会環境の変化により各国で医療制度改革が行われるなど、医療を取り巻く環境が大きく変化しています。

こうした社会のニーズに合わせて、私たちは医療機器、医薬品の両面から、医療に提供できる新たな価値を追求していきたいと考えています。

医療機器の進化は、患者さんの身体への負担を少なくし、治療にかかる時間やコストの軽減につながるため、医療における効率性、経済性を高めることが可能になります。また医薬品との組合せなどにより、治療効果を高めることもつながります。

一方で、医療機器は正しく使う医療技術を伴って初めて効果をえられるものです。そのためにテルモは、技術トレーニングなどソフト面のサポートも重要な使命と考えます。

私たちはこれからも、テルモならではの医療機器・医薬品の技術・ノウハウにより、人にやさしい医療の実現をめざします。



代表取締役 社長

新宅 裕太郎

人を資産としてとらえ、価値を向上させていきます

テルモのさまざまな取り組みの軸となっているのが「人」です。

テルモではかねてより、「人を軸とした経営」を経営方針の一つに掲げてきました。企業の真の価値とはそこで働く人たち、アソシエイト(社員)の価値の総和であると考えています。

2009年度からは、新たな社内風土改革の取り組みとして「アソシエイト・プライド」をスタートしました。これは一人ひとりの力をチームの力にすることで仕事の成果を高めるとともに、個々の成長を促すことをめざすものです。「お互いに協力するライオンの群れ」の意味と、本来持つ「誇り」の2つの意味を込め、このチームのことを「プライド」と呼びます。全員の力を発揮し、一層の医療への貢献をめざします。

社会の一員として

持続可能な社会の構築に貢献する一員として、企業には果たすべき責任があります。テルモでは、企業理念のもとに優れた製品を開発し、高い品質で安定して供給すること、グローバルに新たな医療技術を普及すること、さらに、医療を取り巻くさまざまな社会的な課題にも積極的に取り組んでいくことが、私たちの果たすべき社会的責任であると考えます。

そして、地球環境への負荷を減らす取り組みも重要な責務の一つです。テルモは地球温暖化防止に向けてエネルギーの削減や、廃棄物削減に向けたゼロ・エミッションの継続達成など、地球環境に配慮した経営を続けています。2009年度は、環境に配慮した製品開発を促進するための開発指針を新たに導入し、2つの製品をこれに認定しました。

医療を通じて世界の人々になくてはならない会社になる。それがテルモのめざすところです。それは私たちの意志であり、決意でもあります。

テルモのころ

テルモには、創業以来培ってきた独自の考え方や仕事の仕方があります。それらは他社にはない個性であり、私たちの価値なのです。

一方で、社会が常に変化する中、テルモがテルモであり続けるために、未来に向かって決して変えてはいけな基本的な考え方と志があります。それらを「テルモのころ」として66項目にまとめました。



テルモは企業活動を行うにあたり、5つのステートメントを掲げています



テルモは、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供することにより企業価値の継続的な向上をめざしています。同時に、企業理念を具体化するためのステートメント(企業活動規範)として、「開かれた経営」、「良き企業市民」を掲げて実践しています。これに基づき、経営の健全性と透明性を確保し、社会から信頼される企業であり続けるため、以下の通りコーポレート・ガバナンスの体制を整えています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制の概要

取締役会は15名中3名を社外取締役とし、監督機能の強化と意思決定の質の向上を図っています。また、役付取締役を廃止しており、取締役は代表取締役と取締役の2区分とし、主に全社的な経営方針の決定や業務の監督にあたっています。一方、執行役員制の拡充を図り、執行役員は職制に応じた職責に基づき、それぞれの業務執行にあたっています。経営を担う取締役は、その経営責任を明確にし、経営環境の変化に機動的に対応する最適な経営体制を確保するため、任期を1年としています。

経営の透明性と客観性を高める目的から、取締役候補者の推薦及び取締役の業績評価、報酬案について検討する「報酬人事委員会」を、社外取締役を含む体制で設置しています。テルモは監査役会設置会社であり、監査役会は、4名中2名を社外監査役とし、ガバナンスのあり方と運営状況を確認し、取締役会機能を含めた経営の日常的活動の適正性の確保に努めています。

監査役をサポート組織として「監査役室」を設置し、専任スタッフを配置して、監査業務の一層の協力を図っています。

経営全般へのアドバイスを目的に、社外の有識者から成る「アドバイザリーボード」を設置し、2カ月毎に経営層との意見交換会を開催しています。意見交換会には、3名の社外アドバイザーと会長を始めとした社内取締役が参加しています。

内部監査及び監査役監査の状況

テルモは監査役会設置会社であり、有価証券報告書提出日現在、監査役会は4名中2名を社外監査役とし、ガバナンスのあり方と運営状況を確認し、取締役会機能を含めた経営の日常的活動の適正性の確保に努めています。なお、監査役をサポート組織として「監査役室」を設置し、専任スタッフを配置して、監査業務の一層の強化を図っています。

監査役会は、8名で構成される内部監査部門である「業務監査室」と月1回の報告会を実施し、内部監査及び財務報告に係る内部統制評価の報告を求めるなど、連携を深めています。また、監査役及び業務監査室長は、内部統制委員会に出席し、定期的に内部統制に係る整備・運用及び評価に関する報告を受けています。

会計監査人に対しては、監査役会と年6回程度の会合を実施し、積極的な意見及び情報交換を行うとともに、必要に応じて監査の実施経過について適宜報告を行うなどの対応をしています。また、財務報告に係る内部統制評価については、業務監査室から随時必要な報告等を受けるなど、公正な監査が実施できる体制づくりを行っています。

なお、常任監査役土佐嘉彦は、テルモの経理部長を経験しており、また、監査役高井延幸は、株式会社山武において最高財務責任者を経験しており、財務及び会計に関する相当程度の知恵を有するものであります。また、監査役大森政輔は、弁護士の資格を有しています。

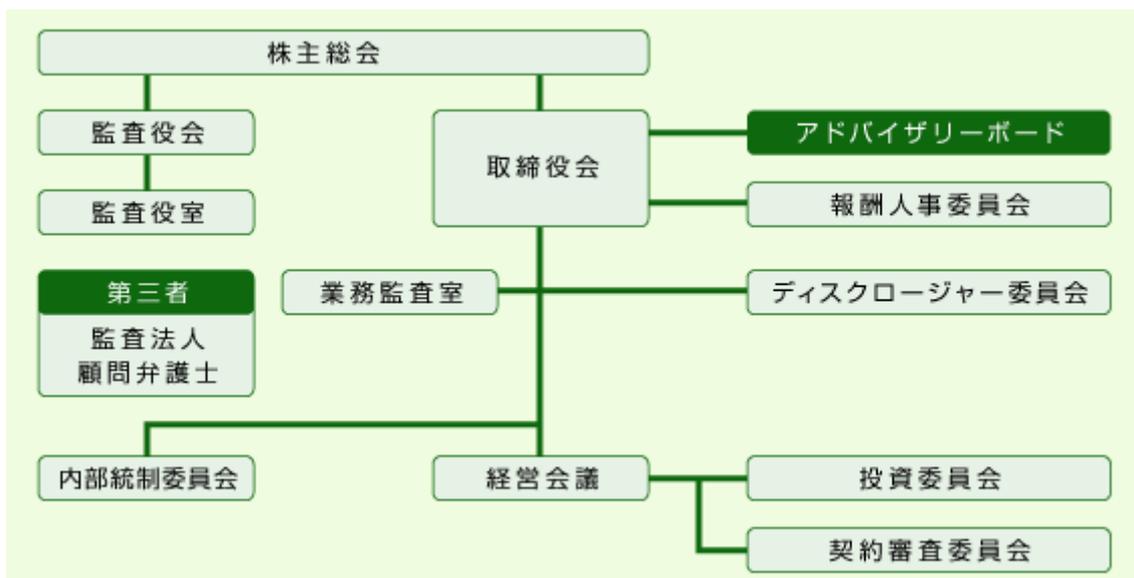
内部統制システムの整備

テルモは、取締役会直轄の「内部統制委員会」が内部統制に関する審議を行うとともに、これらの一層の強化を推進しています。

なお、テルモは、会社法に基づく「内部統制システムの基本方針」を取締役会において決定しています。

同基本方針において、テルモは、テルモの行動規範である「テルモグループ行動規準」の遵守を事業活動遂行の基本に据え、「内部統制委員会」が中心となって、コンプライアンス体制、情報の保存・管理に係る体制、リスク管理体制、経営の効率性確保体制、テルモグループにおける内部統制システムの整備、監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制のより一層の整備を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



2010年6月29日時点

コンプライアンス

コンプライアンス体制

テルモの企業理念である「医療を通じて社会に貢献する」は、企業としてだけでなく、全アソシエイトのめざすところ
です。医療にかかわる企業としての高い倫理観をもって事業を行っていくために、これからも法令遵守と企業倫理
を軸とした公正・公平な事業活動を進めていきます。

当社は、これらの活動を推進するために、「内部統制委員会」を設置し、コンプライアンスの観点からグループ全
体の重要な課題を審議し実行しています。また、「内部統制委員会」の指示のもと、グループ各社は、コンプライ
アンス活動を推進する役割で「コンプライアンス・オフィサー」を設置し、各社での取り組みを実践しています。その活
動を通じて、重要な情報を「内部統制委員会」に報告・審議することでグループ全体のコンプライアンス活動を推進
しています。

「テルモグループ行動規準(SAKURARULE)」の遵守

テルモは企業に求められる社会的要請により深く応えるため、海外を含むテルモグループの全アソシエイトを対象
に日常の行動規準を定めた「テルモグループ行動規準(SAKURARULE)」を2008年4月に制定し、テルモグルー
プ全アソシエイトにSAKURARULEの冊子を配布しています。

SAKURARULEでは、「企業理念」と「テルモのこころ」を礎に「アソシエイト一人ひとりには公正な事業活動と環境へ
の責任ある行動を展開し、信頼される企業市民の模範とならなければなりません」と宣言し、各現場に応じた勉強
会を実施するなど、企業倫理の重要性を認識できる環境を整備しています。また、人権の尊重や差別の排除につ
いても明文化し、徹底して取り組んでいます。

企業倫理ホットライン「ロバの耳」

「アソシエイト全員で会社をよくしよう」「会社の風通しをよくしよう」のスローガンのもと、内部通報制度として企業倫
理ホットライン「ロバの耳」を2003年に開設しました。

「ロバの耳」は、「テルモグループ行動規準」に照らして気になる内容・状況があった場合、正社員・派遣社員の区
別なく、アソシエイトが連絡・相談できます。匿名でも電話、メール、封書などが利用できる体制を整え、プライバシ
ー保護や不利益の禁止を徹底した上で、改善すべき問題に取り組んでいます。

生命倫理の尊重

テルモの医療機器・医薬品開発及び評価は、生命の尊厳を第一に考え、関連法や公的指針だけでなく、社内規
定を定め、倫理性と科学性の両立を図っています。

研究開発及び製品評価のための動物実験では、2005年の法改正により明確化された3Rの理念*に加え、4番目
のRである「実験責任(Responsibility)」を果たせるよう、社内に委員会を設置しています。委員会では、社員教育、
実験計画の審査、適正な実験実施と終了確認、動物の適正な飼養・管理・自己点検を実行しています。

* 3Rの理念: Replacement(動物を使用しない研究への代替)、Reduction(動物数の削減)、Refinement(動物の受ける苦痛の
軽減)の3項目を十分に考慮・検討した上での研究が重要であると、1959年にRusselとBurchが初めて提言した。日本では2005
年、動物の愛護及び管理に関する法律の改正で、その理念が明文化された。

2010年6月29日時点

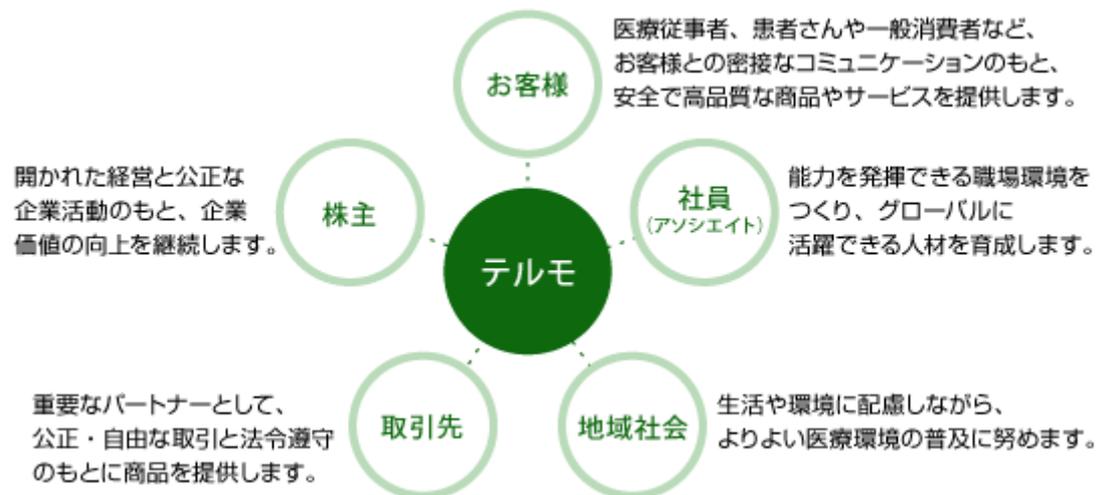
ステークホルダー

テルモのステークホルダーへの考え方

テルモの事業活動は、さまざまな立場の方々に支えられて成り立っています。製品を使われるお客様をはじめ、テルモを取り巻くすべての方々がステークホルダーです。

みなさまと良好なコミュニケーションを図りながら、今後も共に成長していきます。

テルモのステークホルダー



負担の少ない治療法を世界中に広めるために



患者さんの負担が少ない
手首からのカテーテル手術を普及させるため、
テルモは国内外で医療従事者への
技術トレーニングをサポートしています。
ハードとソフトの両面を提供し、
患者さんと医療従事者の笑顔をつなぐ
架け橋に一。

手首からのカテーテル治療で患者さんの負担を軽減

狭心症や心筋梗塞などの心疾患は、悪性新生物(がん)に次ぐ日本人の死因の第二位*1であり、世界の死因の中でも大きな割合を占めています。中でも動脈硬化や血栓などで心臓の血管が狭くなる虚血性心疾患の治療においては、従来の開胸手術のほかに、1980年代には足の付け根の大腿動脈からカテーテルを挿入し、血管の内側から治療が行われるようになりました。しかし、大腿動脈は太い動脈であり、止血が確認されるまで患者さんはベッドから起き上がれず、また出血による合併症を引き起こす例もあります。

こうした患者さんの負担を軽減するため、1990年代からは、手首の動脈からカテーテルを挿入するTRI*2の治療法が発展。太ももに比べ傷口が小さいため、出血が少なく手術直後から歩くこともでき、日帰り手術も可能になることから医療コストの削減という点でも注目されてきています。



手首の動脈からカテーテルを挿入するTRI

*1 厚生労働省「平成21年 人口動態統計の年間推計」より

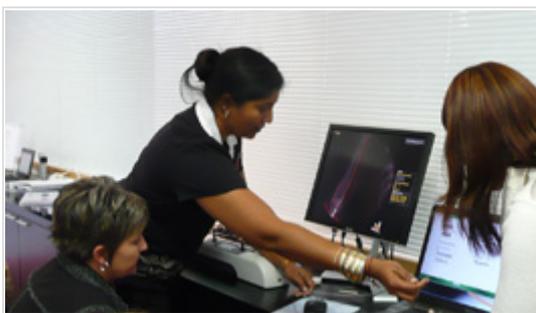
*2 TRI: Trans-Radial coronary Intervention 経桡骨動脈的冠動脈形成術。

TRIのグローバルな普及をめざし、各国で医療従事者をサポート

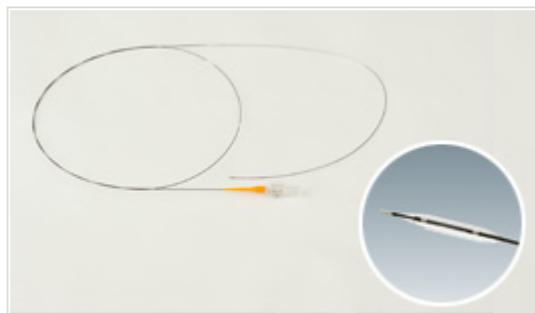
テルモはカテーテル治療に必要な一連の商品を取り揃え、直径約1mmというカテーテルの細さや挿入の滑らかさが評価され、多くのTRIの治療に用いられてきました。しかし、手首から心臓につながる血管は細く蛇行しているため、治療は容易ではありません。TRIのさらなる普及には医療従事者の技術研修も急務です。そのためにテルモは2005年から、医師の皆様がTRIの手技を獲得するためのサポートを開始。コンピュータによるTRIのシミュレーショントレーニングの開発や、実技研修会を積極的に行っています。

また、グローバルな普及をめざして世界各国へのトレーニングプログラムの提供、学会での日本人医師による現地医師へのレクチャーのサポート、セミナーの開催などにも取り組んでいます。特にTRIの普及率が低いアメリカでは、少人数制のトレーニングを幾度も実施するとともに、TRI関連のビデオライブラリーなどが充実した医療従事者向けWebサイトを2010年4月から開設し、さらなる普及・啓発に努めています。

現在は、日本で行われる心疾患カテーテル治療の60～70%がTRIで、世界各地でその比率が高まっています。



TRIのトレーニング



血管拡張用カテーテル(左) 先端のバルーン(右)

カテーテル治療の領域を広げる新たな製品開発へ挑戦

心疾患だけでなく、さまざまな疾患領域の治療に有効であるとして注目を集めるカテーテル治療。テルモは新たな商品の技術開発に挑戦しています。脳動脈瘤の破裂を防ぐために「プラチナコイル」を瘤の中に詰めたり、狭まった足の血管の血流をよくするために「ステント」を入れて広げたりと、心疾患以外の分野にも、テルモの技術を生かしたカテーテル治療は幅広く行われています。

医療技術は日々革新し、現場のニーズも多様化しています。テルモの使命は、商品によって医療の安全と安心を支えるだけでなく、トレーニングなどのサポートにも尽力することで、使う人にも使われる人にもやさしい医療の架け橋となることです。すべては「医療を通じて社会に貢献する」ために。これからもテルモの挑戦は続きます。

普及の原点は患者さんに より安全な治療だから

TRIの普及には、圧倒的な技術が必要で、トレーニングは非常に難しいのです。テルモがTRIの普及に果たした役割はものすごく大きい。自分たちの先には世界の患者さんがいるということを思い、もっと変革と前進をして、よいものを作っていたきたいと思います。そして、それをできるのがテルモです。

世界中の医療現場でTRIの普及に取り組む
湘南鎌倉総合病院 副院長 齋藤 滋 先生



医療の未来を支えるテルモメディカルプラネックス



チーム医療やシミュレーショントレーニングなど、現場さながらの研修が求められる現在。最先端設備と充実したスペースを擁するメディカルプラネックスならではのサポートで、テルモは医療を通じてグローバルに貢献する、医療業界のリーディングカンパニーをめざします。

最新設備と充実した環境で新たな医療に挑戦できる場

神奈川県にあるテルモメディカルプラネックスは、延床面積14,000m²を誇り、医療関係者の技術とテルモのものづくりの技によって、新しい医療を創造していくための施設です。X線造影室や先端機器を備えた手術室などがある「WEST」と、模擬病院や各種シミュレータを揃える「EAST」があり、血管モデルやバーチャル・リアリティを活用した先端医療のトレーニングや、静脈注射などの基礎的なトレーニング、技術開発・製品開発のほか、セミナーや学会、意見交換会なども行われています。

2009年度は、研修や見学などに延べ1万人を超える医療関係者の方が訪れており、来訪者は2002年の開設以来、4万人を超えています。



X線造影室



テルモメディカルプラネックス外観

「プラネックスだからできる」ことで医療の安全に貢献する

近年、医療関係者からのニーズで増えているのが、メディカルプラネックスの利点を最大限に生かしたトレーニングです。これまで病院内で多く行われていた研修は、限られた設備や広さのため、職種別の研究や部分的な研修に偏りがちでした。また、「院内だけのルールに則った研修内容に不安がある」、「研修後の振り返りが充分ではない」などの相談も多く寄せられていました。

手術室、病棟、ナースステーションなど病院の各施設を模した「ホスピタルスタジオ」を使って臨床現場をリアルに再現できるだけでなく、全国の病院と積み重ねてきたノウハウを基に、最適な研修内容を提供できます。また、10数台のカメラにより、手元だけでなく室内全体を撮影することで、一連の動作や流れを検証できるほか、自らの気づきを導きやすくなっています。そのため、医療の現場で起こり得る多重課題に対応するシナリオシミュレーションの研修が可能となり、ヒヤリハット*1の防止や医療の安全性の向上に貢献しています。

*1 ヒヤリハット:ヒヤリとした、ハツとしたなど、一歩間違えば重大な事故になっていたケースのこと。

大切なのは“人”への支援。医療をリードする企業をめざして

医療現場では医療の質を高めるためにさまざまな変化が起きています。注目されるのは職種の連携によるチーム医療です。医師や看護師、臨床工学技士を交えた手術チームのトレーニングや、病棟での新たな役割が期待される薬剤師に対しては、血圧・体温・脈拍測定などのバイタルサイン測定を用いた患者観察研修など、それぞれの職種の壁を越えた研修にニーズが高まっています。ほかにも、研修医を対象とした客観的臨床能力試験など、医療教育の貢献にも力を入れています。また、研修には開発者も参画し、現場の生の声を反映した製品開発を進めています。

医療を通じた社会への貢献は、高品質で安全な商品の供給だけでは不十分だとテルモは考えています。新たな医療をリードし、支える存在として、今後も“人”にフォーカスした多角的なサポートを続けていきます。



静脈注射のトレーニング

臨床現場を再現した場が 行動できる看護師を育てる

医療現場では、知識は行動が伴って初めて役立ちます。新人教育で重要なのは、現場で優先順位の判断ができるようになること。プラネックスは臨床現場を再現して研修ができ、満足度も高いです。

テルモとは今後も連携し、医療教育の面からも医療現場を支えていただきたいです。

新人看護師研修をプラネックスで実施されている
北里大学病院 看護部長 別府 千恵 様



お客様とともに

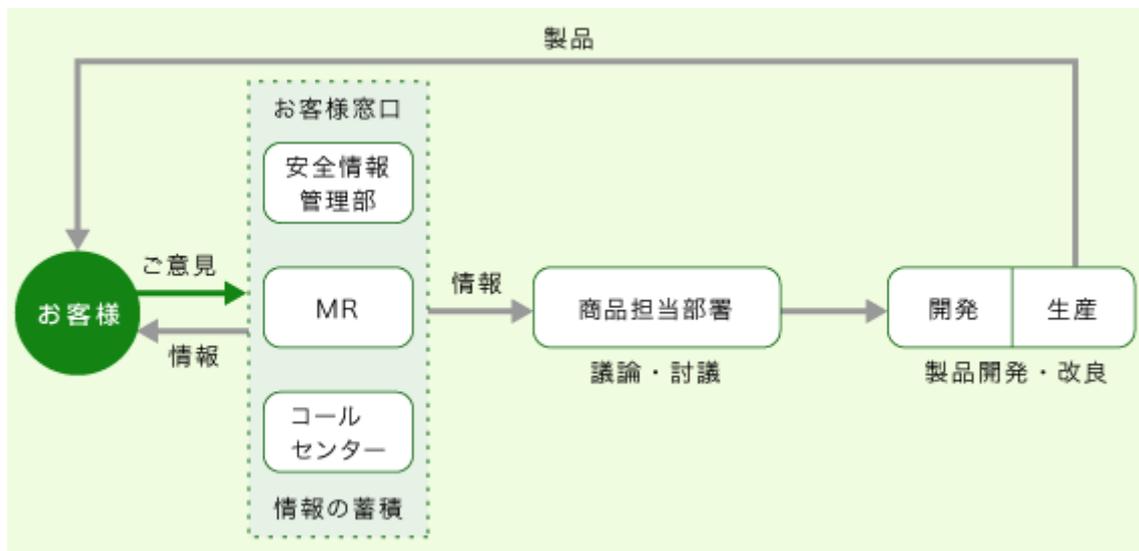
お客様とコミュニケーションを図りながら安全で質の高い「人にやさしい医療」の実現に取り組むことが、医療機器メーカーとしての役割であり、責任であると考えています。

お客様との関わりに対する考え方

私たちテルモのお客様は、医療従事者や患者さん、健康や病気に関心のある一般消費者の方々などです。お客様のニーズを的確にとらえ、お客様に必要とされる製品を開発することが、私たちの役割であると考えています。また、販売した製品をお客様に安心してお使いいただくための活動も重要な取り組みとして位置づけています。

テルモは、こうした考えのもと、お客様とのダイレクトかつ密接なコミュニケーションを安全な医療の基礎として、製品開発とサービスの両面から人々の健康な暮らしに貢献できるよう、事業活動を遂行しています。

お客様とテルモの関わり



お客様の声に耳を傾ける

テルモ・コールセンター

テルモ・コールセンターは、一般のお客様、医療機関、代理店の皆様から、1日約1,500件にのぼる電話でのお問い合わせをいただいています。テルモの商品は医療機関で使われるもの、家庭で使われるものなどさまざまですが、一つひとつのお問い合わせにすばやく的確に回答するため、分野ごとに専門のコミュニケーターが対応しています。新しく着任したコミュニケーターは2週間から4週間にわたる研修を受け、日々トレーニングを実施しています。また年2回、商品知識力・コミュニケーション力・ホスピタリティ・効率化などの項目ごとにレベルチェックを受け研鑽を積んでいます。

お客様に満足いただけるようコミュニケーションの維持・向上に努めるとともに、在宅医療の患者さんなど緊急性が高い分野のお問い合わせに関しては、24時間対応しています。こうした幅広い取り組みが評価され、2008年と2009年に連続して(財)日本電話ユーザー協会主催の「企業電話対応コンテスト」で最優秀賞を受賞しました。

お問い合わせ

<http://www.terumo.co.jp/ssl/index.html>



専門知識を持つコミュニケーターが対応



企業電話対応コンテスト受賞の様子

お客様の声を商品へ生かす

医療安全に関する情報を蓄積

お客様から寄せられる、商品の品質や安全性・適正使用に関する情報は社内の安全情報管理部に蓄積されています。重要な情報は商品の添付文書に記載するほか、ウェブサイトや業界団体を通じた情報発信、MR*が医療機関を訪問して状況を説明するケースなど、スピーディかつきめ細かなコミュニケーションが図られています。また、蓄積された情報は次の製品開発や、医療安全に関する医療機関の研修サポートにも生かされています。

* MR: Medical Representativeの略。医療機関向けの情報担当者。

安全・安心な品質への取り組み

品質を守ることは医療にかかわる企業の重大な責務であり、テルモの企業価値を根底で支えています。お客様により安全に、安心してお使いいただくためテルモでは、製品の品質にサービスの品質を加えた総合品質の向上に、全アソシエイトが取り組んでいます。

国際規格に適合した品質保証体制

1995年、当社は欧州の医療機器指令への対応を皮切りに、国際規格に適合した品質マネジメントシステムと既存の医薬品GMP*1をベースにした高度な品質保証体制の融合を進めました。そして現在、グローバルな要求に適合する品質マネジメントシステムの構築を推進しています。

品質保証の国際規格であるISO13485*2の認証取得はもとより、改正薬事法、改正医療機器指令、近年急激に強化されつつある米国のFDA規制、及び急速に進むグローバルハーモナイゼーションによる新興国規制の強化など、各国の規制要求の把握を行っています。また、それらを取捨選択する形で品質マネジメントシステムの継続的な改善に努めています。

*1 医薬品GMP:原料の入庫から製造、出荷までのすべての過程で製品が安全につくられ、品質を保つために定められた規制システム。

*2 ISO13485:医療機器の品質保証のための国際標準規格。



工場での厳しい品質管理

安全・安心を追求する品質方針

品質マネジメントシステムの構築と実施、その有効性の維持のため、経営者が自ら品質方針を設定しています。各部門はこの方針に基づいて品質目標を設定し、トップの方針がアソシエイト一人ひとりの目標に落とし込まれていきます。品質方針の一番目に掲げている「お客様の視点」が当社の品質保証のベースになっています。

品質方針

- 私たちは、医療の現場に安全と安心をお届けするため、
- ・ お客様にとって価値ある製品を追求します。
 - ・ 品質システムにおける自らの役割を理解し、実践します。
 - ・ 仕事の進め方を常に見直し、改善します。

2004年6月30日 テルモ株式会社

高品質を守り抜く監査体制

品質を維持・向上させるため、品質マネジメントシステムが適切に遵守・運用されていることを客観的に評価する内部監査を実施しています。内部監査は、トレーニングを積み一定の基準に達したアソシエイトが行います。結果は経営者に報告され、改善指摘を受けて品質マネジメントシステムの継続的な改善を続けます。さらに、薬事法をはじめ欧米各国から全世界に拡大しつつある規制や、取引先企業の個別要求事項への適合を証明するため、年に数回の外部監査を受けています。

海外でも厳しい品質管理を実施

海外工場の役割が増す今、国内で培った品質向上のノウハウを海外アソシエイトに伝える一方、体系的な考え方や標準化といったシステム面の多くを彼らから学んでいます。相互交流を続ける中、国内で独自に発展した評価手法の「初期流動品質確認*」が、海外工場でも「Shoki-Ryudo」として導入され始めました。

* 初期流動品質確認:新製品を量産移行する際に、品質の不具合の有無や製品仕様などを再度確認する品質管理。

株主・投資家とともに

テルモは、株主や投資家の方々とのコミュニケーションを通じて「開かれた経営」に努めています。高い透明性を保ち、フェアな情報開示を行うとともに、テルモの事業や製品だけでなく、医療を深く理解してもらうように、さまざまな工夫をしています。良き企業市民として、分かりやすく質の高いコミュニケーションをめざしています。

ウェブサイト「IR基本方針(投資家の皆様へ)」

http://www.terumo.co.jp/ir/topmessage/disclosure_policy.html

テルモファンを広げる株主総会

株主総会では、売上や利益などの業績報告はもちろん、商品や技術がどのように医療に貢献しているのかについて分かりやすく解説し、株主の皆様へ理解を深めていただけるように心がけています。商品の展示コーナーでは、テルモ商品を間近でご覧いただきました。



株主総会での商品展示

個人投資家向けセミナーを開催

投資家の皆様と経営者やIR担当者が、直接ふれ合う機会の少ない地域では、毎年数回個人投資家向けのセミナーを行っています。2009年度は福井・金沢・札幌・仙台で開催し、多くの方々からテルモに対する期待の声をいただきました。また、東京証券取引所が主催する「東証IRフェスタ2010」にも参加しました。医療機器を実際に手に取れる商品展示コーナーでは、テルモへの理解を深めてもらうことができました。



個人投資家向けセミナーを実施

投資判断に役立つIR情報の開示

テルモは、自社ウェブサイトにてIR情報を開示しています。特に、「テルモ四季報」を通じ、個人投資家の皆様の投資判断に役立つような、コンパクトで分かりやすい情報発信をめざしています。

ウェブサイト「テルモ四季報」(株主の皆様へ)

<http://www.terumo.co.jp/ir/shikihou/index.html>

ウェブサイト「投資家の皆様へ」

<http://www.terumo.co.jp/ir/index.html>



ウェブサイト「テルモ四季報」

お取引先とともに

テルモは、医療を通じて社会に貢献するという企業理念のもと、原材料の調達を推進し、医療従事者や患者さんに対して、安全かつ安心に商品をお使いいただけるよう、原材料の選定を行っています。

原材料調達に関するポリシー

2009年10月に、テルモは人にやさしく環境にもやさしい企業をめざし、「Human×Eco 開発指針」を全社に導入しました。これにより、

1. 次世代に害のない材料選定（環境負荷の低減）
2. 資源を無駄なく使用出来る材料選定（省資源化による削減）

等も考慮し、新たなステージの調達をめざしています。

このような考えを基本にお取引先と公平かつ公正な関係を維持・継続し、また、各国の薬事規制・法令ルールに則った原材料の調達に、継続的に取り組んでいます。

原材料調達の取り組み

テルモの製品は160カ国以上へ販売されており、生産拠点は、日本で5拠点、海外で15拠点となります。原材料調達に関する環境が激しく変化する中で、品質と安定供給の確保を第一に、医療現場へ高品質の商品を供給できるよう最適地購買に取り組んでいます。

下請法の対応

下請法遵法に関し、行政機関である公正取引委員会・中小企業庁主催の講習会への積極的な参加による啓発・促進を実施しています。

また、下請法強化月間に併せ、発注担当者を中心に下請法の説明会を開催するなど、親企業として遵法すべきポイントの再認識と確認を行っています。さらに社内教育の実施により、遵法に対する意識の維持・向上に努めています。

お取引先へのアンケート

お取引先より信頼される資材部門となるよう、さらなる改善を図るため、毎年、お取引先へアンケートを実施しています。

内容は、テルモの資材取引上のビジネスマナーをはじめ、取引倫理、資材選定方法等お取引にかかわる種々の問い合わせなどです。アンケートのご回答やご意見に基づき、当社の資材部門の課題を分析した上で、工場資材部門へフィードバックし、課題の解消を行うツールとして役立てています。

また必要に応じて、ご意見をいただいたお取引先と直接的な話し合いを行い、相互の信頼関係の向上に努めています。

社員とともに

テルモでは社員を「自らを高め続ける努力をし、主体的に行動する人」という意味を込めて、「アソシエイト」と呼んでいます。一人ひとりが、能力を最大限に発揮し、成長できる環境づくりに取り組んでいます。

柔軟な組織編制と人材配置

アソシエイト・プライド

テルモが2009年度からスタートさせた「アソシエイト・プライド」は、仕事のやり方、組織のあり方、人材の育成などを大胆に変革する風土改革です。プライドは、「組織ありき」ではなく「ミッションありき」の、集団（チーム）です。リーダーは、既存の組織にとらわれず、ミッション解決のために最適なメンバーを柔軟に集めることができます。社内では組織の壁を越えた、多彩な「プライド」が数多く活動しています。

リーダーには、職位や年齢に関係なく、能力のある人、自ら手を挙げた意欲ある人など、ミッションに応じて最適な人を柔軟に抜擢しています。



組織の壁を越えて活動するプライド

意思ある行動派にチャンス

LEOセミナー

「最大の学習効果は自ら興味を持ち、学ぶ必要性を感じたときに発揮される」との考えから、テルモではほとんどの研修を「立候補・選抜」スタイルにしています。例えば、次世代の経営人材育成を目的とした「LEO*セミナー」では、約100名の推薦・手上げ応募者の中から約30名の若手・中堅社員（20～40代）が選抜され、経営者に必要な教養（歴史、文化など）を学ぶとともに、経営課題についてグループで夜を徹した議論をし、事業プランを経営陣に提案します。実際にこのセミナーの中から会社のプロジェクトとして発足した提案もあります。

* LEO: Leader Executive Organizationの略。ライオン（経営者）に成長するポテンシャルのある「レオ」という意味も込めている。



グループで熱い議論をかわすLEOセミナー

自分の仕事は自分でつかむ

ACE公募

「やりたい仕事は自分でつかむ」、「やりたい仕事で能力を100%発揮する」をコンセプトに「ACE公募(社内の求人募集)」を行っています。さまざまな部門・職種からの人材募集に立候補したアソシエイトが、自分の力で仕事を勝ち取る制度です。ただし、現職でも成果を上げていることが前提で、現状逃避の応募は認められません。2009年度は、BRICs駐在員候補、海外マーケティングなどの募集に対して、20~30名の応募があり、5名が合格を勝ち取りました。これまでに約100名のアソシエイトがこの制度を活用して異動し、さまざまな分野で活躍しています。



ACE公募 募集マーク

コツコツ努力する縁の下の力持ちに光をあてる

現場の誇り賞

テルモの成長を支えているのは、高い業績を残すアソシエイトだけではありません。「日々地道な努力を続けるアソシエイトにも光をあてる」という考えのもと、テルモでは毎年「現場の誇り賞」の表彰を実施しています。

2009年度は、現場で推薦を受けた約100名の中から、工場の滅菌担当者や経理業務担当者など7名が受賞しました。

また海外拠点の中にも、現場で努力するアソシエイトを表彰する取り組みがあります。オーストラリア支店では、アソシエイト同士で顧客満足、チームワークなど4つの観点から推薦を行い表彰しています。



2009年度「現場の誇り賞」受賞者

「頑張る」を応援、仕事を通じて成長

社内留学

他部門の業務を体験し、視野を広げる「社内留学」制度を導入しています。「人事異動以外にも、他部門を知る機会がほしい」というアソシエイトの声を反映し、制度化したものです。本社や研究部門のアソシエイトが営業現場を体験してお客様の反応を直に感じたり、生産の現場で働くアソシエイトが別の工場へ赴くことで、新たな技術を身につけられるといったメリットがあります。1週間から半年程度の社内留学により、部門間のコミュニケーションを円滑にする効果も生まれています。

また、新しい試みとして他社との交換留学もスタートしました。異なる文化の価値観が混ざり合うことで、新たな気づきやシナジーが生まれる風土をテルモはめざしています。

臨床基礎研修・営業体験

総合医療トレーニング施設「テルモメディカルプラネックス」をアシエイトのスキルアップにも活用し、MRのための高度な「臨床トレーニング」から、新入社員を対象とした「臨床基礎研修」まで、常に現場の視点・お客様の視点で考える風土を醸成しています。また、研究職の新入社員には5カ月間の営業実習、スタッフ部門の社員には1週間程度の営業現場体験（営業同行研修）なども行っています。



テルモメディカルプラネックスでの新入社員研修

社員の子どもに医療の仕事体験会

テルモでは社員のご家族に、医療の重要性と医療に携わる仕事の素晴らしさ、そして命の大切さを理解してもらえよう、メディカルプラネックスにて「プラネックスメディカルスクール」(仕事体験会)を行っています。

2009年度は中学生を対象に、看護師、薬剤師、外科医、臨床工学技士といった職業体験を、臨床現場経験のある社員講師の指導のもと、プラネックスという病院さながらの環境を生かしたプログラムで開催し、19名が参加しました。参加者からは、「いつか自分もこのような職業に就きたい」といった感想が寄せられるなど毎回好評をいただいています。

このスクールをきっかけに、子どもたちが医療に携わる仕事への興味を深めることや、新たな職業観を持つことができるよう、また家族が働くテルモを好きになってもらえるように、今後も継続して開催していきます。



社員講師の指導のもと、職業体験を行う参加者

社会貢献活動

テルモは、優れた商品やサービスを提供して医療に貢献するだけでなく、事業活動に関連する情報提供、災害支援、地域社会への貢献にも重点的に取り組んでいます。

病気の予防に役立つ情報を提供

健康情報テレビ番組「カラダのキモチ」

2006年より、健康情報番組「カラダのキモチ」を提供しています。予防医学の重要性が増す中、役立つ医療・健康情報をお届けすることで、健康生活に貢献することが目的です。毎回身近なテーマを取り上げ、ドクターの監修のもと医学的な観点から健康的な毎日を送るためのヒントを分かりやすくお届けしています。

週刊！健康カレンダー「カラダのキモチ」

毎週日曜日 朝7:00～7:30 CBC/TBS系列 全国28局ネット放送



身近なテーマで健康生活を提案

ウェブサイト「週刊！健康カレンダー「カラダのキモチ」

<http://hicbc.com/tv/karada/>

「テルモ健康天気予報」

2004年から、その日の気象が健康状態や疾病に与える影響を予報する「テルモ健康天気予報」をテレビ、ラジオ、ウェブサイトで紹介しています。予報項目は、関節痛、熱中症、ぜんそく、血圧、片頭痛などで、独自の計算式で予報しています。

テルモが行った健康と気象に関する意識調査では、81%の人が「気象や季節の変化」と「体調」は関係があると思っており、73%の人が実際に体験していることが分かりました。これらの結果からも、生気象学に基づいた病気の発症予防や悪化防止に役立つ情報が求められていることが分かります。

ラジオ「テルモ健康天気予報」

毎週土曜日 朝7:20～30頃 TBSラジオ(関東)

ウェブサイト「テルモ健康天気予報」

<http://kenkotenki.jp/>



ウェブサイト「テルモ健康天気予報」

生活習慣病予防セミナーを開催

生活習慣病を予防するには、日々の自己管理が大切です。テルモでは、ウェブサイトやパンフレットなどを通じて健康に関する情報を発信するほか、2005年度からは一般の方々を対象とした「生活習慣病予防セミナー」を開催し、延べ7,000名の方が参加されました。

ウェブサイト「生活習慣病予防セミナー」

<http://www.terumo.co.jp/healthcare/seminar/index.html>



一般の方々を対象にしたセミナーが好評

新健康カレッジを開催

テルモは聖路加看護大学と共同で、市民向けの健康支援セミナー「新健康カレッジ」を2008年より開催しています。市民の皆様が主体となって自らの健康をつくり育てる社会の実現をめざし、生活習慣病予防やインフルエンザなど身近な疾患をテーマにさまざまなセミナーを実施しています。

ウェブサイト「新健康カレッジ」

<http://www.terumo.co.jp/healthcare/seminar2009/seminar.html>



新健康カレッジを聖路加看護大学にて開催

下肢静脈瘤市民セミナーを開催

テルモでは、下肢静脈瘤への啓発促進と症状改善や進行予防を目的とし、地域の方へ医療情報を提供するセミナーを開催しています。セミナーでは、下肢静脈瘤が簡単に治療できる疾患であること、また弾性ストッキングを使用することが症状改善や予防につながるなどをお伝えしています。



下肢静脈瘤セミナーの様子

医療の発展への貢献

テルモ科学技術振興財団

財団法人 テルモ科学技術振興財団は1987年に設立され、生命科学に関わる素材や生物工学、生体防御機構など科学技術に関する研究の助成や振興を図り、これまで計723件(約11億円)の助成を行ってきました。

2009年度は、「特定研究助成」として生物学的ペースメーカーの開発など3件、「一般研究助成」として筋ジストロフィーの治療研究など6件、「国際交流助成」として第8回脳血管国際会議など28件に助成を行い、幅広いジャンルの研究振興に努めてきました。

さらに2010年6月に、バイオマテリアル研究を通じて再生医療分野の発展に大きく寄与するグローバルの研究者に向けた学術賞として「テルモ国際賞」を創設しました。

また子どもたちの理数離れが進む中、将来の科学者を育てる一助となるよう中高生向け生命科学情報ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」を2009年に開設しました。万能ES細胞やiPS細胞など生命科学を分かりやすく解説したり、生命科学に関する疑問にお答えするなど、内容も充実しています。

ウェブサイト「財団法人 テルモ科学技術振興財団」

<http://www.terumozaidan.or.jp>

ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」

<http://www.terumozaidan.or.jp/lab/>



2009年度採択 特定研究助成の発足会



ウェブサイト「生命科学DOKIDOKI研究室」Q&Aコーナーも充実

中国の医療の質向上をめざす「テルモ基金」

2007年、中国浙江省にある杭州工場(泰爾茂医療産品(杭州)有限公司)の操業10周年を機に、少しでも多くの人々が医療の恩恵を受けられるようにと、浙江大学に「テルモ基金」を創設しました。西洋と東洋の医学を融合した新しい医療の創造をめざす研究への助成を行うほか、優秀な学生を対象に奨学育成金を寄贈し、中国の医療向上に貢献しています。第一期(運営期間:2007年～2009年)が終了し、継続して2010年より第二期がスタートしました。



浙江大学医学院学生との交流

「テルモ基金」概要

- ・ 基金名: 泰尔茂基金(第二期)
- ・ 基金内容: 「泰尔茂研究助成基金」と「泰尔茂奨学金」
- ・ 基金総額: 年間40万元×3年間=120万元
- ・ 運営期間: 2010～2012年

テルモ体温研究所

テルモ体温研究所*では、テルモ創業の原点である身近な「体温」を日々の健康管理に役立てていただけるよう、専門医の先生方と連携しながら調査研究や啓発活動を進めています。調査研究では、体温計測に関わる実態調査や次世代の体温測定に向けての探索や学会発表を行っています。また啓発活動では、「体温と生活リズム」をテーマに小中学校の生徒さんや保護者の方々、教職員の皆様に向けて公開授業を行っています。2009年11月には秦野市立南が丘中学校で授業を行い、生活リズムの乱れが体温に影響を及ぼすことや、インフルエンザに備えた体温の正しい測り方についてお伝えしました。また文部科学省の「早寝早起き朝ごはん」こどもの生活リズムプロジェクトにも参画し、体温と生活リズムの関係から生活習慣の改善を啓発しています。ウェブサイトでも、発熱やその対策、熱中症、冷え性など、体温に関するさまざまな情報を発信しています。



子どもたち自身が体温の変化を調べ、発表を行った公開授業

* テルモ体温研究所:体温から健康を考え、体温情報の提供や新しい健康生活を提案するテルモの研究所。

ウェブサイト「テルモ体温研究所」

<http://www.terumo-taion.jp/>

テルモ体温研究所とインフルエンザ予防

テルモ体温研究所では、ウェブサイトを通じてインフルエンザの予防策について情報発信を行っています。新型インフルエンザが流行した2009年度は、新型インフルエンザのパンデミックに関する情報や、季節性インフルエンザとかぜとの違いについて情報発信を行いました。また、「ワキでの検温方法」や「手洗い・うがいの仕方」を正しく伝える啓発ツールを作成し、ダウンロードできるようにしました。これらは、小中学校の先生方や企業の方などから、学校や職場内で掲示して活用したいとご要望をいただいています。「体温の測り方」は英語や中国語にも翻訳され、「体温リズムのチェックシート」等とともにPDF形式でダウンロードできるようになっています。

ウェブサイト「テルモ体温研究所」

<http://www.terumo-taion.jp/>



正しい検温方法を啓発



ウェブサイト「テルモ体温研究所」

地域社会への貢献

ホスピスへクリスマスの贈りもの

テルモ湘南センターでは、クリスマスの約1週間前からアソシエイトが自主的にチームを組んで同センターの外壁にイルミネーションの飾りつけを行い、クリスマスには花火を打ち上げています。この企画は、同センターの向かいにあるホスピスに入院されている患者さんやそのご家族、地域住民の方々にクリスマスを楽しんでいただきたいとの思いから、1997年より毎年実施しているものです。2009年は期間中、社員から提案されたトナカイなど6種類の図柄のイルミネーションを冬の夜空に演出しました。



湘南センターの外壁を利用したイルミネーションと花火

「テルモ富士山森づくり」を推進

テルモは静岡県富士宮市に2つの工場を有し、富士山麓から湧き出る地下水を利用して医療機器や医薬品などの生産をしています。自然の恵みを利用して事業を行う企業として、2003年から、台風によって倒壊の被害を受けた富士山の森林を、郷土樹種によって、災害に強く地下水の源となる自然林に再生する活動「テルモ富士山森づくり」を、NPO法人「富士山自然の森づくり」と共催で行っています。

2008年度からは、これまでの苗木の成長を助けるための下草刈りから、鹿などの食害被害を防ぐために木の周りに麻布を巻くなど、本来の森を再生するための活動を新たに開始しました。2009年度は、約150名のアソシエイトとその家族がボランティアで森づくりに参加しました。



社員と家族が参加して森づくりを実施

各地域での活動

テルモでは、地域への身近な社会貢献の一環として各事業拠点でさまざまな活動を実施しています。

- ・ 多摩川河川敷のごみ拾い活動(毎年春と秋に実施。延べ40名参加)
- ・ 構外清掃、ごみ拾い活動(工場、支店、本社にて定期的実施)
- ・ 湘南センター外周道路のクリーンアップ活動(総勢73名参加)
- ・ 甲府工場外周道路のクリーンアップ活動(総勢300名参加)
- ・ 富士宮工場外周道路のクリーンアップ活動



清掃活動の様子(多摩川)



清掃活動の様子(湘南)

エコキャップの取り組み

テルモでは、NPO法人エコキャップ推進協会で実施しているエコキャップ運動に参加しています。この運動は、ペットボトルのキャップを分別し、キャップの再資源化とその売却益により発展途上国の子どもへワクチンを贈る運動です。



社内での取り組みの様子

献血活動

テルモでは、各事業所・支店それぞれの職場にて献血を行っています。毎年実施しており、2009年度は全国32カ所の事業所、支店で計620名の協力がありました。テルモでは、製品の1つである献血用のバッグの生産だけではなく、実際の献血活動を通じた貢献も継続していきます。

災害支援

テルモは医療機器や医薬品の不足が深刻な自然災害の被災地へ、医療機器などの物資を支援しています。

2009年は、フィリピンを襲った台風16号の被災地、及びインドネシア・スマトラ島沖で発生した地震の被災地に向け、現地で緊急に必要なとされる注射器や血液バッグなどを寄贈しました。



国立M.ジャミル総合病院へ輸液セットを寄贈

支援の概要

1. インドネシア・スマトラ島沖地震被害
血液バッグ 2,000セット(寄贈先:インドネシア赤十字)
輸液セット 1,000セット(寄贈先:国立M.ジャミル総合病院)
2. フィリピン台風16号被害
注射器 85,000本(寄贈先:ラグナ州、フィリピン経済区庁)
食料(米)(寄贈先:同上)

海外事業所の活動

アメリカのグループ会社各社では、身近な社会貢献の一環として次のような活動を各地域で継続して実施しています。

- ・ 心臓病、がんなどの患者支援団体のチャリティウォークへの定期的な参加、及び献血活動
- ・ 高速道路の清掃活動、プラスチックボトル・缶・紙など各種リサイクル運動
- ・ ホームレスの方などへの感謝祭での食べ物の寄付、おもちや、コートの寄付活動



高速道路清掃活動の様子

環境にやさしい企業をめざして

「人にやさしい医療」と「環境にやさしい医療」の調和をめざすテルモは、環境基本方針や環境マネジメントシステムを整備し、地球環境との共生に積極的に取り組んでいます。



環境基本方針で環境保全の意識を共有

テルモは「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念に基づき、1999年に「環境基本方針」を制定しました。この方針のもと、医療分野のリーディング企業として地球環境の保全に取り組んでいます。地球環境を守ることがテルモの事業活動の前提であり、グループ全体で推進しています。

環境基本方針

私たちテルモグループは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、医療の安全と安心を提供することを基本に、リーディング企業として責任ある環境保全活動を展開し、信頼される企業市民をめざします。

- ◆ 自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます。
 - ・ 事業が環境へ与える影響の把握
 - ・ 環境に配慮した商品開発
 - ・ 環境汚染の予防
 - ・ エネルギーや資源の有効活用
 - ・ 廃棄物の削減など
- ◆ 各国の環境保全に関する法律、条例、協定等を遵守します。
- ◆ 環境保全に関する推進体制を設け、推進・監査に努めます。
- ◆ 社会や地域の一員として環境保全活動への支援、協力に努めます。
- ◆ 社内広報活動や教育を行い、社員の環境保全に関する意識の向上に努めます。

制定 1999年12月

環境マネジメントシステムを整備

効率的で実効性のある環境マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクル*1を活用して環境パフォーマンスの向上に取り組んでいます。環境管理の最高決定機関である「環境委員会」は、全社における環境保全の施策や目標を設定し、活動状況の把握などを半期ごとに行っています。また、「環境監査委員会」は、各事業所に対して内部監査を行い、システムの有効性や運営状況を確認。その活動内容は毎年公表し、透明性の高い経営・組織体制の維持に努めています。

*1 PDCAサイクル: Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の4つのプロセスを反復させ、継続的な業務改善を図るマネジメントサイクル。

環境管理全社推進組織



アソシエイト向け環境研修を実施

環境基本方針やテルモの一員として行うべき環境活動への理解を深めるために、毎年アソシエイトを対象とした環境研修を行っています。2009年度は営業拠点の管理担当者を対象とした、オフィスでの廃棄物管理や省エネルギーについてのマネジメント研修や、MR(医薬情報担当者)を対象に、日頃の営業活動の中で「環境」について意識すべき事柄や関係する環境法令についての研修を行いました。



アソシエイト向け研修

社内の環境保全活動を表彰

1999年度に、環境保全に著しい成果をあげた施策や活動を表彰する社内表彰制度を設立しました。2003年度からは国内のみならず、テルモグループ全体の制度となりました。

表彰年度	表彰部門	件名
2009年度	富士宮工場管理部保全課	電気式冷凍機導入に伴う省エネ、及びコスト削減活動

環境意識を高める甲府工場掲示板

甲府工場では、2009年度から「環境掲示板」を社員食堂入口に設置し、月に1回更新しています。工場全体のエネルギー消費量、二酸化炭素排出量の推移や廃棄物排出状況などの工場環境負荷情報の「見える化」や、地球温暖化の仕組み、省エネ事例などの環境啓蒙情報を、グラフやイラストを用いて分かりやすく紹介しています。身近な場所で環境に対する情報公開がされることで、工場一丸となった情報の提供と共有、環境意識の醸成に役立っています。



甲府工場の環境掲示板

環境に配慮した商品

「人にやさしく、環境にもやさしい」医療の実現をめざし、医療従事者や患者さん、そして地球環境にもやさしい製品の開発に取り組んでいます。これからも製品を通して社会のニーズと地球環境に貢献していきます。

Human×Eco(ヒューマン・バイ・エコ)開発指針と社内認定マーク

テルモは企業ビジョンとして「人にやさしい医療」の実現をめざして取り組んでいます。「人にやさしい(Human)医療」とは、患者さんの身体に負担が少なく感染を防ぎ、医療従事者が使いやすく、医療の安全性・効率性を高めていくことです。

このことは同時に「環境にもやさしい(Eco)医療」にもつながります。ひとたび感染や医療事故が起これば、その対応に本来は必要のない医療資源が使われるため、安全で効率性の高い製品開発は、医療現場におけるEcoへの貢献だとテルモは考えています。

このような観点から、「人にも環境にもやさしい医療」をめざし、「Human×Eco 開発指針」を策定しました。また、この指針に沿って開発し、特に優れた製品には、自主認定の「Human×Eco」マークの表示をすることで、お客様にも分かりやすくお伝えしています。

Human×Eco 開発指針【理念】



小型軽量化、省電力を実現した酸素濃縮装置

- ・ 環境にやさしく
当社従来器に比べ30%以上軽量化。流量に合わせてコンプレッサーの動きを細かく制御することで使用電力を削減しました。
- ・ 人にやさしく
内蔵バッテリーを搭載し、停電時や災害時にも安心です。万一の火災発生時の延燃を防ぐための「酸素出口加熱検知機能」を搭載しています。

1か月あたりの電気代負担比較(3L/分の場合)



* 新電力料金目安単価22円/kWh(税込)で計算。



酸素濃縮装置「Human×Eco」
認定第1号商品

水分調整の手間を省く、とろみ付き流動食品

- ・ 環境にやさしく
水分や粘度の調整に使用していた栄養ボトルが不要となることで、ボトル洗浄時の環境汚染や廃棄物を削減しました。
- ・ 人にやさしく
水と「とろみ栄養」を一つにすることで、医療従事者や介護者の負担を軽減しました。



とろみ付き栄養食品
「Human×Eco」認定第2号商品

有害物質対策

脱水銀の先駆けとして

テルモは1983年に、国産初の予測式電子体温計を発売しました。翌年、環境面に配慮し、水銀体温計の生産をいち早く終了しました。その後も水銀を使わない電子血圧計を発売するなど、さらなる脱水銀化に努めています。



電子体温計



電子血圧計

脱塩ビとDEHP可塑剤フリーを推進

焼却時に有害ガスが発生するとされる塩化ビニル(PVC)や、毒性の影響が指摘されている可塑剤(DEHP)を使わない商品を供給(代替が可能な場合のみ)しており、包装においても不使用を進めています。



輸液セット



輸液剤バッグ



人工心肺回路

柔軟性・携帯性 ～世界100カ国に広がる血液バッグ

輸血の安全性向上をめざし、1969年国産初の血液バッグを販売。採血チューブと容器を一体化したプラスチック製のバッグは、ガラスよりも柔軟性と携帯性に優れ輸送時のコストが減り、廃棄容量も削減できます。



血液バッグ

幅広いタイプの治療に対応 ～PTCA用バルーンカテーテル*

素材やバルーンのたたみ方などを改良し、幅広いタイプの治療に対応できるPTCA用バルーンカテーテルを開発。一人の患者さんに少ない本数で治療することが可能となり、省資源化に貢献しています。

* PTCA用バルーンカテーテル:カテーテルの先端に装備したバルーン(風船)を膨らませて血管を押し広げ、狭まった血液の通路を拡張するために使用する医療機器。



PTCA用バルーンカテーテル

軽量・小型化 ～できることから実践

シリンジの容量・機能性はそのままに、小型・軽量化。廃棄時の重量で-25%を実現しています。また、小型化することで輸送時のコスト／ゴミの排出を削減(1998年当時)。さらに、在宅医療で使う腹膜透析液バッグでは、家庭での廃棄を考慮して40%の軽量化を実現しています。



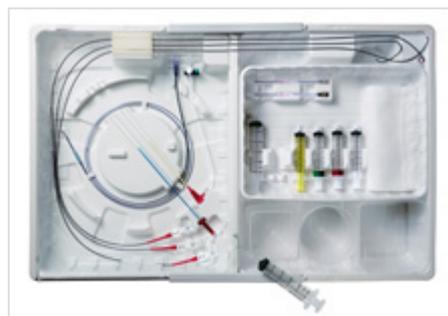
シリンジ



腹膜透析液

パッケージ化と廃棄時容量削減 ～資材と管理工数の削減と廃棄時のかさを半分に

手術に必要な商品一式をパッケージ化したソリューションパック。包装資材の重複や管理の無駄をなくしました。また、常にパッケージの方法や形状などを工夫、トレイの形状変更で廃棄時のかさを1/2にするなど、さらなる廃棄重量・容量の削減を実現しています。



開封後

一体化 ～複数の薬剤をワンバッグに

使用前に混注が必要な輸液剤をワンバッグ化。複数のものを一体化することで、包装や混注時に使用するバイアル瓶・注射器などのゴミを削減できました。



輸液バッグ

一体化 ～プレフィルドシリンジ

吸引・溶解などの作業が必要なアンプルやバイアルに対して、あらかじめシリンジに薬剤を充填したプレフィルドシリンジ。プラスチック製なのでガラスに比べ重量・容積面など、廃棄性にもすぐれています。



プレフィルドシリンジ製剤

一体化 ～動脈フィルター—一体型人工肺

人工肺と動脈フィルターを一体化したことで、血液回路の部品点数及び原材料を削減しました。



人工肺

地球温暖化防止

地球環境を守ることがテルモの事業活動の前提です。

テルモでは事業所での省エネルギー活動に加えて、「チャレンジ25キャンペーン」への参加など全員参加型のエコ活動を行い、二酸化炭素排出量の削減を推進しています。

二酸化炭素排出量削減目標

テルモでは、2012年度までに二酸化炭素排出量を製品売上高原単位で1990年度比50%削減*という目標を掲げて、地球温暖化防止に取り組んでいます。

*テルモ単体(海外営業拠点を除く)

二酸化炭素排出量と製品売上高原単位の推移



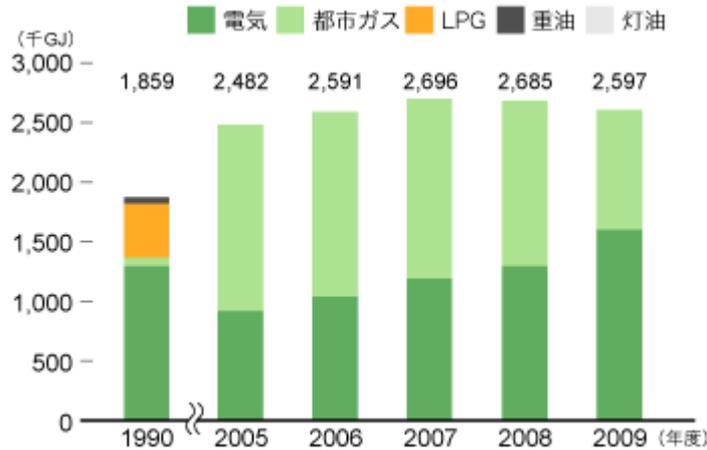
* 1 海外営業拠点を除く

* 2 海外営業拠点、海外マーケティング拠点を除く

二酸化炭素排出量の削減に向けた取り組み

テルモでは、天然ガスコージェネレーション設備の稼働停止や、ガス吸収式冷凍機から電気式高効率冷凍機への変更など、「ガス」から二酸化炭素排出量の少ない「電力」への燃料転換を推進しています。2009年度は電力利用率を57%まで向上させ、同時に、蒸気トラップの漏れ防止対策などのきめ細かな省エネ活動にも取り組みました。その結果、二酸化炭素排出量原単位は、1990年度比56%と大幅に低減することができました。また二酸化炭素総排出量も2008年度と比較して8%削減することができました。

エネルギー使用量とエネルギー源の内訳推移



* 「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」(平成18年3月経済産業省、環境省令第3号)に基づいた換算係数を用いて、二酸化炭素排出量、発熱量を算出しています。

富士宮工場～高効率冷凍機導入

静岡県にある富士宮工場では、電気式冷凍機導入の際、空調負荷変動を考慮し、ターボ冷凍機とスクリーウー冷凍機を組み合わせる仕様にしたことで、システム効率を大幅に向上させました。結果、富士宮工場の二酸化炭素排出量を2008年度比12%削減することができました。



ターボ冷凍機



スクリーウーチラー

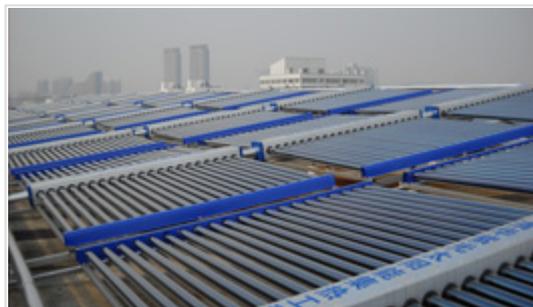
泰爾茂医療産品(杭州)有限公司の取り組み

中国の泰爾茂医療産品(杭州)有限公司では、危険物倉庫の夏場の高温時の対策として屋根の二重化や、屋根への散水などを行い、倉庫の温度を空調なしに常温に保ち、危険物の安全管理と同時に、エネルギー使用量を削減しています。

また太陽熱温水器を屋上に設置し、太陽エネルギーで温水をつくるなど、地球温暖化防止に取り組んでいます。



危険物倉庫屋根の二重化



屋上に設置された太陽熱温水器

テルモメディカル社の取り組み

テルモメディカル社では、地球温暖化防止の取り組みとして製造工程や倉庫、オフィスなどの照明に高効率蛍光灯を設置しています。また高効率冷却装置の導入や圧縮空気の漏れ対策、クーリングタワーのファンのインバーター制御システムの導入など、きめ細やかな省エネルギー活動を行っています。水使用量削減の取り組みとして、水なしトイレの導入や、芝生への散水量の見直し(最適化)などを行っています。



クーリングタワー

物流の環境負荷削減の取り組み

商品を輸送する際に使用されるエネルギーの削減は、地球温暖化防止の重要なテーマです。

テルモでは、輸送効率の高い委託輸送や海上輸送などのモーダルシフトによるエネルギー使用量削減、そして物流拠点の統廃合など、物流を効率的にする取り組みを行っています。2006年度から物流環境負荷データの把握を開始し、環境負荷削減を進めるために、トラック輸送から海上輸送への切り替えや配送車両の積載効率向上など、荷主として効率的な物流インフラ整備に努め、排出削減に取り組んでいます。

富士宮工場～平成21年度エコシップ・モーダルシフト優良事業者に認定

富士宮工場では、生産する医療機器・医薬品の福岡県の倉庫までの輸送においてCO₂排出量を削減するため、商船三井フェリー株式会社と連携し、2007年より、CO₂排出量の少ない海上輸送の利用を増やしました。これにより、従来のトラック輸送と比較して2008年度に比べCO₂排出量を814t、CO₂排出量削減率52%と大幅に削減。この取り組みが評価され、「平成21年度エコシップ・モーダルシフト優良事業者」(実施主体:エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会、協力:国土交通省海事局)に認定されました。



表彰式の様子

チャレンジ25キャンペーンに参加

テルモは、政府が主催する「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、地球温暖化防止に向けた取り組みを推進しています。「チャレンジ25キャンペーン」とは、これまでの地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」から、よりCO₂削減に向けた運動へと生まれ変わって展開されており、オフィスや家庭などにおいて実践できるCO₂削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案し、その行動の実践を広く国民によびかけています。テルモはこの趣旨に賛同し、オフィスや家庭での地球温暖化防止活動を推進しています。



アソシエイトが自主的に取り組む「ECOチャレンジ」

アソシエイトとその家族が、オフィスや家庭でエコ活動に挑戦する「ECOチャレンジ」キャンペーンを、毎年夏の期間に実施しています。2009年度は2,036名が参加し、身近なエコに取り組みました。また、参加者の取り組みをポイント化し、ポイントに応じて国際協力NGO・オイスカの「子供の森」計画に寄付しています。寄付金は海外の子どもたちの環境教育や、苗木を植えて育てていく森づくり活動のために使用されます。



「子供の森」計画(フィリピンの子供たち)

営業車両でエコドライブに挑戦

全国の支店で営業車のエコドライブを推進しています。やさしい発進を心がける、無駄なアイドリングを止めるなどの環境にやさしい運転に加え、営業車の使用方法の見直し、低燃費車(ハイブリッド車を含む)の導入を積極的に進めています。また、東京23区内の急性期病院を中心に活動する営業拠点として、東京第3支店を渋谷区から文京区に移転させ、営業車を使用しない営業活動にも取り組んでいます。その結果、ガソリン使用による二酸化炭素排出量を前年度より約200t削減しました。今後も、政府の推進する「チャレンジ25キャンペーン」の趣旨にのっとり、営業車両に関わらず、マイカーにおいてもエコドライブの推進を実施していきます。



エコドライブに挑戦



公共交通機関を利用した営業活動

資源の有効活用

テルモの事業活動は、地球の限りある資源を活用することで成り立っています。
 テルモでは、全員参加型の活動で、廃棄物の削減やリサイクルの向上など資源の有効利用に取り組んでいます。

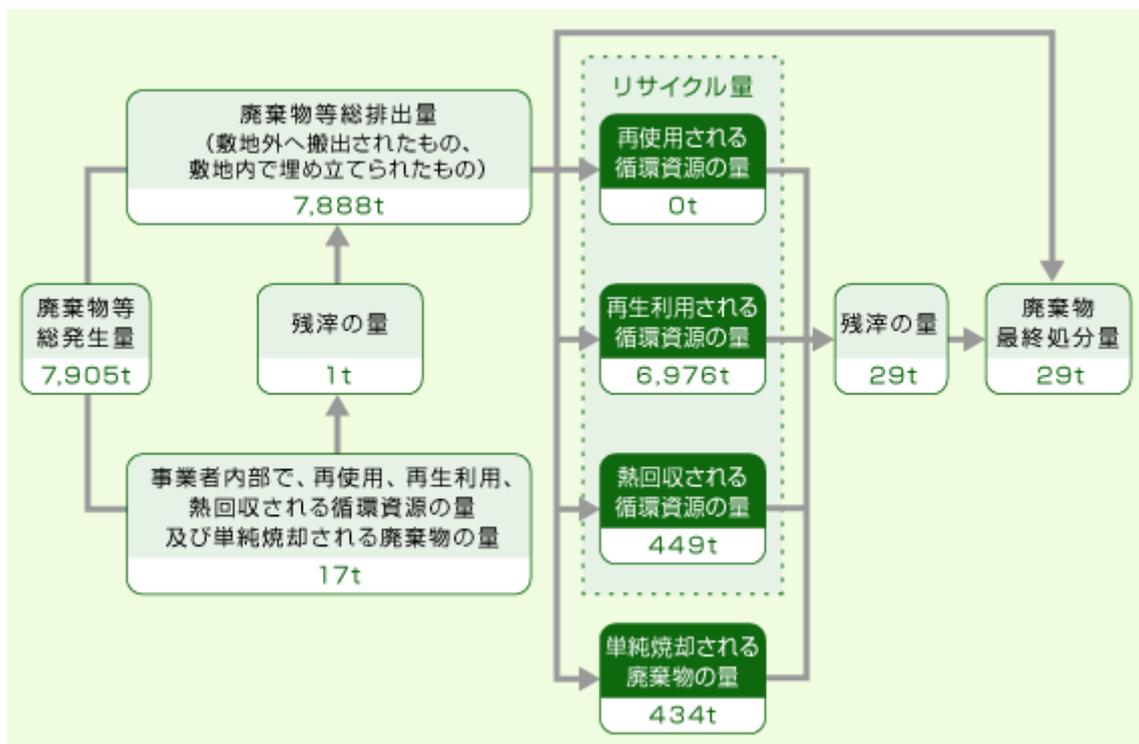
廃棄物の最終処分量削減に向けて

工場や研究開発、オフィスでの事業活動では、さまざまな廃棄物が発生します。テルモは、「営業拠点を除く国内事業所の廃棄物最終処分量(埋立量)を廃棄物総排出量の1%未満にする」というゼロ・エミッションの目標を掲げ、分別廃棄の徹底や廃棄方法・廃棄ルールを工夫しています。2009年度の廃棄物最終処分量は廃棄物総排出量の0.4%となり、6年連続でゼロ・エミッションを達成しました。

リサイクルの促進に向けた取り組み

環境専門部会の事業廃棄物部会を通して事業所間で情報を共有し、アソシエイト全員がリサイクルに努めています。製品の安全性の観点から、廃棄物の社内での再生利用(マテリアルリサイクル)は困難ですが、製造工程やオフィスでの事業活動で発生するさまざまな廃棄物を分別し、リサイクル会社の協力により、床タイルなどの他のプラスチック製品や、RPF(固形燃料)、有機肥料などにリサイクルしています。2009年度のリサイクル率は94%に達しています。

廃棄物などのフロー図(全社) 2009年度



廃プラスチックを社内で油化リサイクル

注射器などの製造工程で出る廃プラスチックを、熱分解して油にする実験設備を甲府工場に設置し、エネルギー源として活用するための研究を開始しました。

油化リサイクルに利用可能な廃プラスチックは、これまで社外で固形燃料としてリサイクルされていましたが、特定の用途にしか利用できませんでした。廃プラスチックを油にすることでボイラーやディーゼルエンジンの燃料として利用することが可能になり、用途が格段に広がります。熱分解油の状態を制御して、より有効な利用を図るため、さらなる研究を進めています。



油化装置



リサイクルした油を使ったバーナー燃焼実験

小型充電式電池のリサイクルに対する取り組み

資源有効利用促進法に基づき、継続して小型充電式電池のリサイクルを実施しています。テルモの商品で発生した使用済み小型充電式電池は、小型充電式電池のリサイクルを推進している一般社団法人JBRCにより、回収・リサイクルされています。また、商品廃棄の際に分別しやすいように、リサイクルマークを表示するなどの工夫をしています。小型シール鉛蓄電池についても、メンテナンスによる電池交換の際に回収・リサイクルをしています。



2009年度回収・リサイクル実績(期間:2009年4月～2010年3月)

(単位:kg)

ニカド電池	ニッケル水素電池	リチウムイオン電池	小型シール鉛蓄電池
4,816	170	37	919

廃棄物処理委託先の監査

テルモから排出した汚泥やプラスチック類の廃棄物が、最後まで適正に処理されているかを確認するため、チェックリストを作成し、計画的に廃棄物の収集運搬委託先・処理委託先を監査しています。2009年度は28カ所の委託先について監査を行いました。

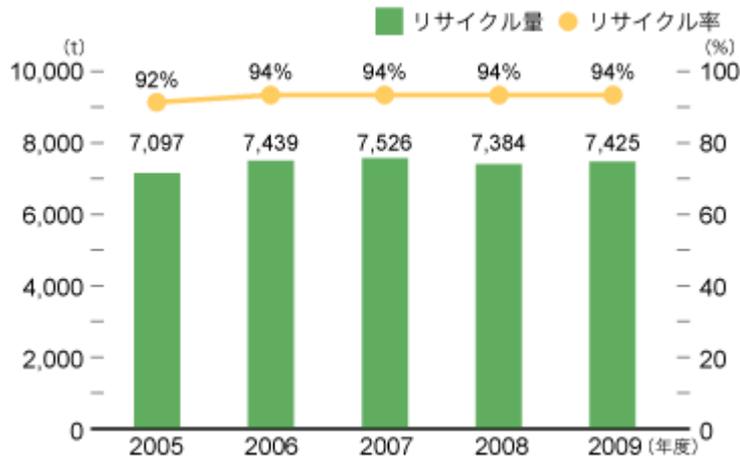
廃棄物最終処分量削減目標

営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を、廃棄物総排出量比1%未満にする＝ゼロ・エミッションの継続

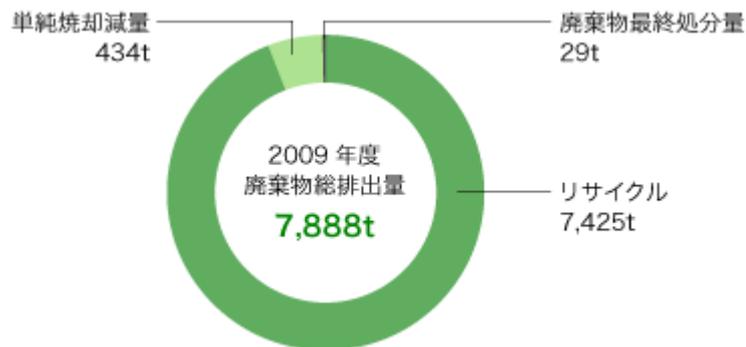
廃棄物最終処分量の排出量推移



リサイクル量とリサイクル率の推移



廃棄物等総排出量(全社)と処理、処分の内訳

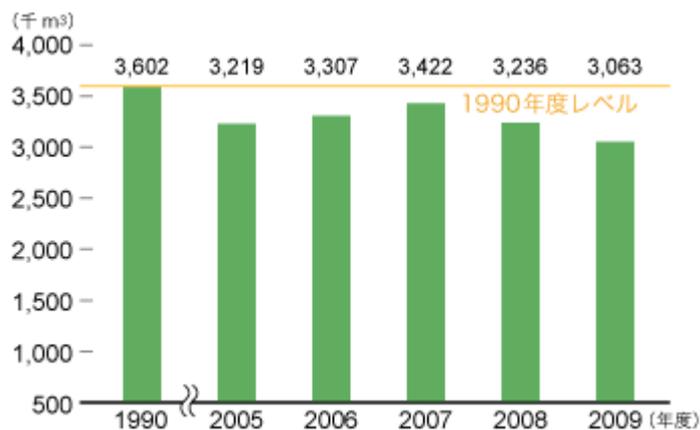


水資源の有効利用

テルモでは、水資源有効利用のために冷却水の循環利用、水資源使用の最適化を行っています。2009年度の水資源利用量は、生産工程の見直しによって3,063千m³で、前年度に比べて5%削減しました。今後も引き続き生産量の増加を見込んでいますが、水資源利用量が1990年度レベルを越えないよう維持していきます。

水資源利用上限目標 水資源利用量を1990年度レベル以下に維持

水資源利用量の推移



化学物質管理

テルモでは、「自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます」と、環境基本方針で定めています。厳しい自主管理目標に基づいて化学物質の把握・管理を行っています。

化学物質管理を徹底させるために

エチレンオキシド排出削減に向けて

エチレンオキシドは、医療機器の滅菌に広く使用されています。排気口の濃度管理だけでなく、製品倉庫など排気口以外からの排出も含めた管理を行うため、環境基準に相当する自主管理濃度*を設けて、事業所敷地境界での管理を行っています。2009年度のエチレンオキシドの取扱量は増加しましたが、排ガス処理装置の稼働により排出量は取扱量の増加に比べ低く抑えることができました。今後は、排出経路をさらに詳細に把握し、排出量把握の高精度化に努めます。

* 参考資料:『化学物質の環境リスク評価』第2巻(環境省)

富士宮工場でエチレンオキシド排ガス処理設備増設

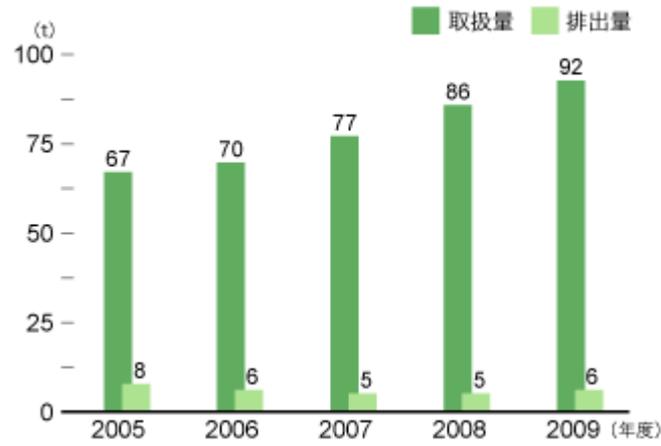
2009年度は、富士宮工場に低濃度の排ガスまで無害化できる触媒酸化処理装置の増設を行いました。これは、エチレンオキシドの取扱量の増加に伴うもので、既存装置と合わせ、さらなる排出削減と取扱工程の作業環境改善をめざします。テルモではエチレンオキシド滅菌を使用している全事業所に排ガス無害化処理設備を導入し稼働しています。触媒酸化処理装置はすでに愛鷹工場、研究開発センターにおいても稼働中です。また、エチレンオキシド滅菌の代替も進めています。



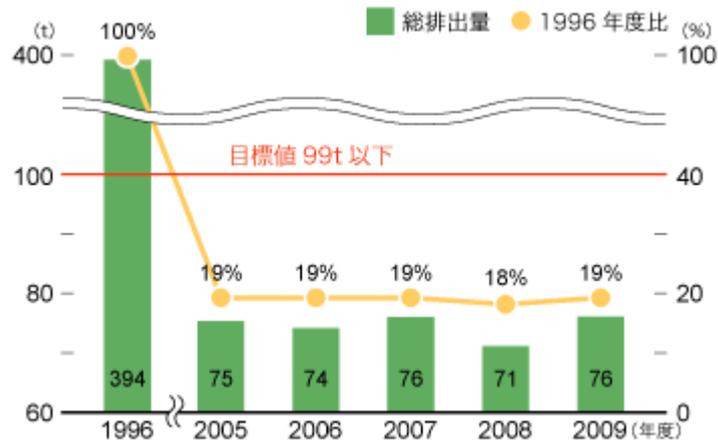
触媒酸化処理装置

化学物質排出量削減目標 ジクロロメタンの排出量を99t以下

エチレンオキシドの取扱量・排出量推移



ジクロロメタンの排出量推移



PRTR*対象物質及び自主管理物質

(単位:t)

化学物質名	量(t)	富士宮工場	愛鷹工場	甲府工場	研究開発	合計
エチレンオキシド(EOG)	取扱量	19.8	54.1	18.4	0.0	92.3
	排出量	1.1	2.7	1.7	0.0	5.5
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ジクロロメタン	取扱量	0.0	5.8	149.2	0.0	155.0
	排出量	0.0	3.4	72.5	0.0	75.9
	移動量	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4
HCFC-141b	取扱量	19.1	0.0	2.6	0.0	21.7
	排出量	19.1	0.0	1.4	0.0	20.5
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
HCFC-225	取扱量	10.4	22.4	13.0	0.0	45.8
	排出量	10.4	21.4	11.8	0.0	43.6
	移動量	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0
フタル酸ジ(2-エチルヘキシル) (DEHP)	取扱量	672.5	6.0	116.1	0.0	794.6
	排出量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	移動量	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6
トルエン	取扱量	0.0	0.0	11.8	5.7	17.5
	排出量	0.0	0.0	9.4	0.0	9.4
	移動量	0.0	0.0	2.5	2.6	5.1
フッ化水素	取扱量	0.0	9.7	0.0	0.0	9.7
	排出量	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9
	移動量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ジクロロエタン	取扱量	0.0	3.4	0.0	0.0	3.4
	排出量	0.0	2.8	0.0	0.0	2.8
	移動量	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6
テトラヒドロフラン THF (自主管理物質)	取扱量	7.2	20.6	2.4	0.0	30.2
	排出量	5.6	14.5	2.3	0.0	22.4
	移動量	1.5	6.0	0.1	0.0	7.6

* PRTR:Pollutant Release and Transfer Register(化学物質排出移動量届出制度)の略。

- ・ HCFC-141bの代替を進めています。そのためオゾン層破壊係数の低いHCFC-225の取扱量が若干増加しました。
- ・ 燃料として使用している都市ガス中のベンゼン含有が規定値以下になったので報告対象から除きました。

PCBの適正な処分に向けて

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、PCB*を使用したトランス、蛍光灯安定器などはすべて取り外しました。速やかに適正な処分ができるよう、日本環境安全事業(株)豊田事業所への早期登録も完了しています。

また、(社)日本電気工業会の調査で、PCB微量混入が否定できないとされた製造期間などに該当する機器については、調査・区分を行い、密閉構造などにより含有分析できないものを除いて、分析(メーカー保証を含む)も完了しています。なお、密閉構造などにより含有分析できない機器については、使用終了後に分析を行う予定です。

* PCB:polychlorinated biphenylの略。ポリ塩化ビフェニル。

グリーン購入の推進

テルモでは、「自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます」と環境基本方針で定めています。製造工程やオフィスでの事務用品、その他の備品の購入に関するガイドラインを設定し、グリーン購入を実施しています。

グリーン調達

グリーン適合性保証体制の構築に向けて

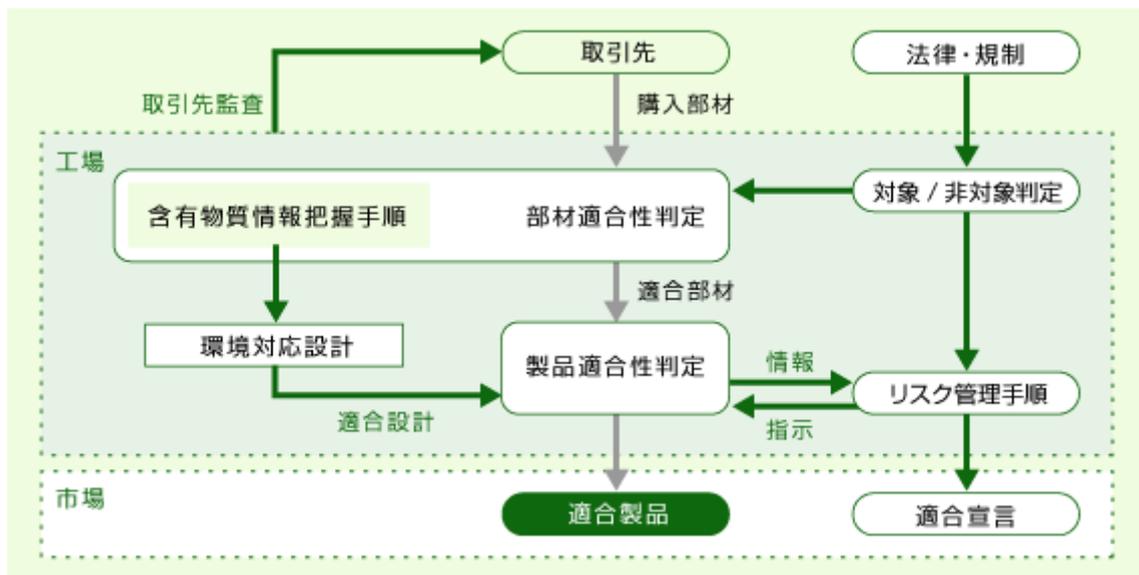
欧州の環境規制(RoHS/WEEE)をはじめ、中国や日本国内でも、法律による電気電子機器への有害物質の使用制限(あるいは表示義務)が施行されています。一方、まだEU RoHS対象となっていない医療機器について、これらの規制に適合するための保証体制(適合性保証体制)を築くことは、環境対応上の重要なミッションになっています。

適合性保証の基本方針は、「有害物質を工場に入れない、工場から出さない」であり、考え方は従来の医療機器の品質保証と大きな違いはありません。しかし、従来にはなかった管理要素を扱わなければならないため、新たに管理手順を追加規定する必要がありました。そこで、以下の5項目の追加管理手順を加え、このうち主要なものは既に設定しました。

1. 対象品／非対象品の判定手順
2. 購入部材及び出荷製品の適合性の判定手順
(購入部材に関しては、判定フローと判定基準を作成。一部実施)
3. 購入部材の含有物質情報把握の手順
(含有物質調査の手順書を制定し、定期調査を2007年度より開始)
4. 製品の環境対応設計の実施手順
(含有物質調査結果をデータベースで提供、適合性の教育実施)
5. リスク管理の手順
(リスク分析／改善指示／自己宣言可否判定)

今後、これらの手順を現行の品質マネジメントシステムに順次統合することで、適合性保証体制全体を構築していきます。

グリーン適合性保証のフロー図



グリーン購入の実施

工場やオフィスでの事務用品、その他の備品に関するガイドラインを設定した上で、グリーン購入を実施しています。今後もグリーン購入を継続し、環境保全への取り組みを強化していきます。

2009年度グリーン購入実績(単位 数量:千個、金額:千円)

区分	データ	全体	環境配慮合計	
本社・営業合計	購入数量	18	9	52%
	合計金額	16,929	5,158	30%
工場合計	購入数量	33	23	69%
	合計金額	16,739	12,869	77%
全社合計	購入数量	51	32	63%
	合計金額	33,668	18,027	54%

* 上記実績は現行のグリーン購入法適合商品、エコマーク等の表示に基づいて算出しています。

低排出ガス車

テルモでは、2010年3月末現在で723台の社有車を所有しています。そのうち625台が4つ星以上の低排出ガス車です。総台数に占める4つ星以上の低排出ガス車の導入率は86%です。

低排出ガス車所有台数

区分	台数
☆☆☆☆ 平成17年排出ガス基準75%低減レベル	625
☆☆☆ 平成17年排出ガス基準50%低減レベル	87
☆☆ 平成12年排出ガス基準50%低減レベル	1
☆ 平成12年排出ガス基準25%低減レベル	5
なし	5
合計	723



低排出ガス車

環境監査の実施

テルモでは、環境基本方針で定めている通り、法令違反や環境問題の発生を未然に防止するための内部環境監査を、継続して実施しています。

2009年度の内部環境監査実施状況

法令違反や環境問題の未然防止、現在から将来における環境リスクを低減させることを目的として、国内工場・湘南センター・本社・営業拠点及びテルモグループ会社の内部環境監査を実施しています。

監査項目

- (1) 環境関連適用法令の明確化と遵法性確認
- (2) 環境リスク項目の管理状況とパフォーマンス確認
 - ・ 環境管理組織の運営状況
 - ・ 廃棄物管理状況と関連リスクの管理状況
 - ・ エネルギー管理と省エネルギーへの取り組みと実績
 - ・ 化学物質の管理状況と関連リスクの管理状況

監査結果

環境関連法令の遵守については、重大な不適合はなく、環境リスクに対する管理システムが整備されていました。

2009年度における環境関連の外部(行政当局)立入調査は、特定の事業所を対象に「特定建築物」「CE設備(液化窒素設備)」について実施されました。いずれも指導事項はありませんでした。



内部環境監査の様子

海外事業所監査

テルモでは、海外の事業所の監査も実施しています。2009年度は泰爾茂医療産品(杭州)有限公司(中国 杭州市)の監査を行いました。監査項目は「環境法令遵守状況」「環境関連設備の管理状況」「環境保全活動(省エネ・廃棄物・リサイクル)」「作業環境・労働安全衛生」で、重大なリスク・法令違反はありませんでした。



泰爾茂医療産品(杭州)有限公司の監査

事業活動・物質フロー

エネルギーや原材料などのインプットに対し、生産活動の過程で二酸化炭素や排水、廃棄物などがアウトプットされるという環境負荷を把握し、それらの数値を指標とすることで、環境負荷の低減に取り組んでいます。



* 事業活動・物質フローの集計範囲は、テルモ株式会社の国内事業所が対象です。

* 物流におけるNox排出量は、環境省「環境活動評価プログラム(2002年4月)」の係数を用いて算出しています。

サイトデータ

テルモは、資源の有効利用とともに環境負荷物質の排出削減のため日々努力しています。
 サイトデータでは、2009年度の国内および海外の生産事業所の環境負荷データを報告します。

事業所	所在地	CO ₂ 総排出量 (千t-CO ₂)	水使用量 (千m ³)	廃棄物 総排出量 (t)	特別管理 廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)
富士宮工場	静岡県 富士宮市	36.4	1,505	2,821	21	2,794
愛鷹工場	静岡県 富士宮市	14.6	432	1,181	144	1,015
甲府工場	山梨県 中巨摩郡	45.4	1,013	3,586	31	3,343
研究開発 センター	神奈川県 足柄上郡	7.0	94	202	48	158
幡ヶ谷本社	東京都 渋谷区	0.5	5	123	1	122
株式会社 医器研	埼玉県 狭山市	0.1	1	8	0	5
テルモ・ クリニカル サプライ 株式会社	岐阜県 各務原市	0.6	4	41	0	29
テルモ メディカル社 TCVS社	アメリカ メリーランド州	16.9	60	659	119	161
TCVS社	アメリカ ミシガン州	2.8	11	708	15	286
TCVS社	アメリカ マサチューセッツ 州	0.5	3	145	-	77
マイクロ ベンション社	アメリカ カリフォルニア州	0.8	6	-	-	-
テルモ ヨーロッパ社	ベルギー ルーバン	17.3	57	1,346	354	553
テルモ ヨーロッパ社 UK工場	イギリス リバプール	0.1	0.3	67	0	50
バスケテック社	イギリス グラスゴー	1.8	15	149	9	30
泰爾茂医療産品 (杭州) 有限公司	中国 浙江省	27.7	494	130	12	97

長春泰爾茂 医用器具 有限公司	中国 吉林省	3.6	30	255	0	206
テルモ フィリピンズ社	フィリピン マニラ	17.2	89	704	29	649
テルモ ベンポール社	インド ケララ州	3.3	30	472	1	472
テルモ ベトナム社	ベトナム ビンフック省	2.1	33	56	4	24

* TCVS社:テルモカーディオバスキュレーションシステムズ社の略称。

* 廃棄物密度は、一般/産業廃棄物を0.2t/m³、有害廃棄物を1.0t/m³として算出しています。

取り組みの歴史

環境への取り組みの歴史

1971(昭和46)年	愛鷹工場に環境管理室を設置
1972(昭和47)年	愛鷹工場で、沈降式からキレート吸着式水銀排水処理施設に変更
1975(昭和50)年	富士宮工場で、総合排水処理施設を設置
1976(昭和51)年	注射針ハブ(針の根元部分)の、酸による表面処理を廃止。酸廃液が生じないプラズマ処理に変更 富士宮工場・愛鷹工場が、富士宮市と公害防止協定を締結
1979(昭和54)年	富士宮工場で、ボイラー燃料を重油から硫黄分の少ないLPGへ変更
1980(昭和55)年	シリンジ(注射筒)のガスケットを、ゴムから熱可塑性エラストマーへ変更 焼却時の硫黄酸化物発生を防止 愛鷹工場に総合排水処理施設設置
1981(昭和56)年	輸液剤容器(テルパック)を脱塩ビ化。焼却時に有害ガスを発生しないEVA(エチレン酢酸ビニル共重合体)に変更
1982(昭和57)年	規制に先立ちトリクロロエチレンの使用を、全面廃止
1983(昭和58)年	甲府工場で、滅菌方法に排ガスの発生しないガンマ線滅菌を採用 水銀を使用しない電子体温計の販売開始
1984(昭和59)年	脱水銀のため、約70年間製造してきた水銀体温計の製造を終了
1989(平成 1)年	ガラス真空採血管を、焼却処理しやすいポリエステル素材のプラスチック真空採血管に切り替え
1991(平成 3)年	焼却時に有害ガスを発生しないポリブタジエンのチューブを使用した脱塩ビ輸液セットの販売開始
1992(平成 4)年	医療現場の環境を考慮し、脱水銀化の一環として病院用電子血圧計の販売開始
1994(平成 6)年	焼却時に硫黄酸化物を発生しない熱可塑性エラストマー素材バルーンカテーテルの販売開始
1996(平成 8)年	甲府工場製造工程での、オゾン層破壊物質の特定フロンを使用廃止(順次他工場も実施) 新型プラスチック瓶針輸液セットの生産を開始。脱金属針により、病院内分別、焼却の容易化が可能
1997(平成 9)年	本社に環境推進室を設置 甲府工場でコージェネレーション(電熱併給)発電が運転開始し、工場使用電力の60%を賄う 富士宮・愛鷹工場で、LPGから二酸化炭素発生量の少ない都市ガスに変更 重油の使用全廃(全生産事業所)
1998(平成10)年	シリンジ(注射筒)の小型・軽量化を実施。シリンジ廃棄重量を約25%削減 社内で使用するコピー用紙の再生紙への切り替え開始 富士宮工場にEOG排ガス処理のため、触媒酸化処理装置を導入

1999(平成11)年	<p>テルモ環境基本方針を制定</p> <p>富士宮工場でコージェネレーション発電が運転開始</p> <p>カタログ、仕様変更案内など、再生紙への切り替え開始</p> <p>在宅で使用する腹膜透析液容器の脱塩ビ化を開始、焼却時に有害ガスを発生しないポリプロピレンに変更、廃棄重量を40%削減</p>
2000(平成12)年	<p>環境委員会を発足</p> <p>愛鷹工場でコージェネレーション発電が運転開始</p> <p>容器包装識別表示、材質表示を開始</p> <p>内部環境監査を開始</p> <p>営業用ディーゼル車を全廃</p> <p>2000年度より環境報告書を発行(以後、毎年発行)</p>
2001(平成13)年	<p>甲府工場と愛鷹工場の焼却炉運転停止</p> <p>PCB含有機器の使用を廃止し、すべてを保管</p> <p>非塩ビ製素材の小児用輸液セットの販売開始</p> <p>富士山一斉清掃に社員と家族約80名が参加</p>
2002(平成14)年	<p>甲府工場でベンゼン・クロロホルムの全廃</p> <p>甲府工場と愛鷹工場の焼却炉廃止・撤去</p> <p>甲府地区と富士宮地区の共同参加(約130名)による富士山一斉清掃</p> <p>甲府工場に観測井戸設置(地下水質監視)</p> <p>可塑剤DEHPの代替としてTOTMを使用した輸液セットの販売開始</p>
2003(平成15)年	<p>愛鷹工場と本社でゼロ・エミッション達成</p> <p>LPGから都市ガスに変更(甲府工場)。国内主要事業所すべてが燃料転換完了</p> <p>海外事業所の現地調査を実施</p> <p>テルモ富士山森づくりを開始</p>
2004(平成16)年	<p>「高カロリー輸液用総合ビタミン・糖・アミノ酸・電解質液」で平成16年(第1回)エコプロダクツ大賞「エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞」受賞</p> <p>甲府工場と富士宮工場でゼロ・エミッション達成</p>
2006(平成18)年	<p>湘南センターでゼロ・エミッション達成</p> <p>RoHS指令適合電子血圧計発売</p> <p>甲府工場にターボ冷凍機導入</p> <p>愛鷹工場にEOG排ガス処理のため触媒酸化処理装置を導入</p> <p>「チーム・マイナス6%」に参加</p>
2008(平成20)年	<p>富士宮工場が「エネルギー管理優良工場 関東経済産業局長賞」を受賞</p> <p>愛鷹工場にEOG排ガス処理のため触媒酸化処理装置を増設</p> <p>廃プラスチック油化処理テストプラントの設置</p>
2009(平成21)年	<p>「Human×Eco 開発指針」の導入</p> <p>海外生産事業所の環境監査を開始</p> <p>富士宮工場が「平成21年度エコシップ・モーダルシフト優良事業者」に認定</p> <p>富士宮工場にEOG排ガス処理のため触媒酸化処理装置を増設</p>

活動の目標と実績

マネジメント・社会・環境パフォーマンスの取り組み項目を充実させながら、その実績と自己評価を掲載しています。

今後も継続して社会貢献活動や環境保全活動を推進し、良き企業市民として適正な情報を開示していきます。

評価 ○:目標達成 △:目標を一部未達成 ×:目標を未達成

マネジメントパフォーマンス				
取り組み項目	自主目標(中長期目標)	2009年度実績	2009年度評価	2010年度の取り組み
内部統制への取り組み	●内部統制システムの継続的な見直しと運用	●内部統制システムの整備	○	●内部統制システムの整備・運用
コンプライアンスの推進	●コンプライアンス研修の継続	●コンプライアンス研修の継続	○	●コンプライアンス研修の継続

社会パフォーマンス				
取り組み項目	自主目標(中長期目標)	2009年度実績	2009年度評価	2010年度の取り組み
アクセス性の高いコールセンター	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持	●受信率97.4%、着信応答時間2.1秒	○	●受信率95%以上、着信応答時間2.5秒以内の維持
障害者雇用の推進	●障害者雇用率1.8%の維持	●2010年3月末現在、障害者雇用率1.71%	△	●雇用率1.8%達成に向けて取り組む
労働安全衛生	●死亡・重大労災をゼロに、労災件数を前年度からダウン	●2009年度死亡・重大労災ゼロ(前年度0件)、その他労災16件(前年度16件) 度数率* 1:1.84931 強度率* 2: 0.00000	△	●死亡・重大労災をゼロに、労災件数を前年度からダウン
女性社員の育成	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を実施	●女性管理職比率3.1%(2010年3月末現在)	△	●性差なく、能力・業績をベースとした育成・登用を推進
公正な採用の推進	●人種・国籍・性別・宗教・身体などに関係なく、能力をベースとした採用を実施	●採用担当者の教育、マニュアルの整備	○	●公正な採用及びそのための採用担当者の教育を継続

*1 度数率: 労災における死傷者数 ÷ 延べ労働時間 × 1,000,000

*2 強度率: 延べ労働損失日数 ÷ 延べ労働時間 × 1,000

環境パフォーマンス				
取り組み項目	自主目標(中長期目標)	2009年度実績	2009年度評価	2010年度の取り組み
事業が環境へ与える影響の把握	●開発・生産・営業活動の中で環境に与える影響を定量的に把握する	●環境影響評価の継続実施 ●HCFC141b*1の代替完了	○	●環境影響評価の継続実施
環境に配慮した製品	●医療現場での脱水銀 ●各国規制対応	●医療機関向け電子血圧計の販売促進 ●製品の環境負荷をLCAを用いて評価実施 ●RoHS指令対応製品開発促進 ●「Human×Eco 開発指針」の導入 ●使用済み小型充電式電池の回収リサイクル	○	●RoHS指令適合製品の開発と保証システム構築継続 ●「Human×Eco 開発指針」の運用促進 ●製品の環境負荷をLCAを用いて評価
環境汚染の予防	●ジクロロメタンの排出量99t以下を継続	●ジクロロメタン排出量(75t) ●エチレンオキシド敷地境界濃度自主測定実施 ●富士宮工場に触媒酸化処理装置を増設	○	●ジクロロメタンの排出量99t以下を継続 ●エチレンオキシド敷地境界濃度自主測定継続 ●愛鷹工場に触媒酸化処理装置を増設
エネルギーや資源の有効活用	●2012年度までに、二酸化炭素排出量を原単位で1990年度比50%削減する	●エネルギーをガスから二酸化炭素排出係数の少ない電力へ転換を推進 ●二酸化炭素排出原単位を1990年度比44%削減 ●富士宮工場が「平成21年度エコシップ・モーダルシフト優良事業者」に認定 ●「チーム・マイナス6%」に参加し、社内エコキャンペーンを実施 ●エコドライブの推進 ●オフィスでの省エネルギー活動の推進 ●廃プラスチック油化の実験を継続実施	○	●エネルギーの電力への転換推進を継続 ●「チャレンジ25キャンペーン」に参加し、社内エコキャンペーンを実施 ●エコドライブの推奨 ●オフィスでの省エネルギー活動の推進継続 ●廃プラスチック油化の実験継続
廃棄物の削減	●営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を総廃棄物量比1%未満にする	●国内全生産事業所(富士宮工場、愛鷹工場、甲府工場)と研究開発センター、本社でゼロ・エミッション*2継続 ●電子マニフェストの利用拡大	○	●営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を総廃棄物量比1%未満を継続 ●グループを含めた電子マニフェストの利用を促進
環境マネジメントシステムの構築	●テルモグループ全体においてテルモ環境マネジメントシステムに適合維持	●国内事業所、国内グループ会社がテルモ環境マネジメントシステムを維持継続 ●国内事業所、国内グループ会社を対象に環境監査を実施 ●杭州工場で環境監査を実施 ●ベトナム工場の現地確認を実施	○	●国内事業所、国内グループ会社がテルモ環境マネジメントシステムを維持継続 ●国内事業所、国内グループ会社の環境監査を継続実施 ●海外工場への環境監査実施

ボランティア活動の支援	●ボランティア活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ●テルモ富士山森づくりの実施(郷土樹種による自然林再生) ●多摩川クリーン作戦(東京)への参加をはじめとするボランティア支援活動 ●エコキャップ運動に参加 ●事業所周辺の清掃活動実施 	○	●テルモ富士山森づくりの継続をはじめとするボランティア支援活動継続
環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●社会・環境報告書の発行 ●環境月間の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●2009年版テルモガイド(社会・環境報告書)の発行 ●環境月間の取り組み ●社内ウェブサイトで、環境月間特集記事を連載 ●社員参加型エコ活動に2,036名参加 ●社員対象環境教育の実施 ●富士宮工場管理部保全課を環境表彰 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●2010年版社会・環境報告書の発行 ●環境月間の取り組み ●社員参加型エコ活動の継続 ●社員対象環境教育の継続
環境法令の遵守	●環境保全に関する法律、条令、協定等の遵守、海外での法令遵守の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●改正省エネ法への対応開始 ●REACH等海外化学物質規制への対応 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●改正省エネ法への対応 ●REACH等海外化学物質規制への対応継続 ●改正土壌汚染対策法への対応

* 1 HCF141b: 代替フロンの一つ、ハイドロクロロフルオロカーボン。

* 2 ゼロ・エミッション: 廃棄物最終処分量が総排出量の1%未満であること。

報告方針

報告方針

本報告書は、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」の実現に向けた事業活動を分かりやすく報告し、社会とのコミュニケーションを促進することを目的に作成しました。

特集では、企業理念や人にやさしい医療の実現に向けたテルモの姿勢として、カテーテル治療やその手技の普及、病院同様の最新設備や医療機器などを備えた施設「テルモメディカルプラネックス」について取り上げています。

対象範囲

可能な限り国内外の連結決算対象のテルモグループを報告対象としましたが、項目により、報告対象が異なる場合があります。

対象期間

2009年度(2009年4月1日～2010年3月31日)

活動には、一部直近の内容も含まれます。

発行時期

今回発行:2010年7月

前回発行:2009年10月

次回発行:2011年7月予定

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006」

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

報告書アーカイブ方法

過去の報告書は年度ごとにPDF形式にまとめ、ウェブサイトを通じて報告しています。

バックナンバー

<http://www.terumo.co.jp/company/csr/report/backnumber.html>